

九州歴史資料館年報

平成30年度



九州歴史資料館

はじめに

九州歴史資料館は、古くから中国大陸、朝鮮半島など対外交流の窓口としての役割を果たしてきた九州の歴史を明らかにすべく、大宰府及び関連遺跡の発掘調査・研究を行ってきました。また、古文書、美術工芸品や考古資料等の収集・保管及び調査を行い、併せてその成果を一般に展示、公開してまいりました。

この年報は、当館が平成30年度に実施した調査・研究活動と事業の概要を報告するものです。

発掘調査については、大宰府史跡の政庁周辺官衙跡のうち蔵司地区について引き続き調査を行いました。また、道路新設に関わる発掘調査も行いました。

展示については、天井工事を行うため平成30年8月から第1・第3展示室を閉室しておりますが、前半には特別展示「大宰府への道」及び企画展示やパネル展示を多数開催いたしました。

普及事業については、広く一般に受講者を募った「九歴講座」・「名誉館長講座」・「九歴ゼミ」・「夕べのギャラリートーク」や各講演会等の開催、その他学習支援、出前講座、九歴ボランティアを中心とした古代体験活動、小郡高等学校、小郡市文化協会やNPO法人と共催した多様なイベントを年間を通じて展開してまいりました。様々な事業の実施をとおして、多くの方々に親しまれる歴史資料館として活性化を図るとともに、文化財愛護思想の普及に努めているところです。

当館は、九州の文化財の調査・研究の拠点として活動するとともに、より一層県民に親しまれる身近な資料館づくりに邁進いたします。今後とも皆様方の御支援をお願いするとともに、当館を御利用願いたいと考えております。

この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

令和元年7月

九州歴史資料館長

杉 光 誠

目 次

1	事業概要	1
(1)	調査・研究	1
(2)	展 示	14
(3)	資料利用	21
(4)	学習支援・博学連携	34
(5)	ボランティア	38
(6)	普及・活用事業	41
(7)	重点施策 福岡国際交流発信事業	52
(8)	広報活動	55
(9)	実習・研修	57
(10)	刊行物一覧	59
(11)	交流事業	60
(12)	協議会等	61
2	九州歴史資料館概要	62
(1)	沿革	62
(2)	施設概要	64
(3)	予 算	64
(4)	組織・職員	65
(5)	関係法規	66
3	諸統計	73
(1)	入館者状況	73
(2)	収蔵資料・図書	73
4	日誌抄	74

1 事業概要

(1) 調査・研究

[学芸調査室学芸研究班]

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としては、古代から中世にかけての仏像や仏画などの、いわゆる仏教美術と、福岡藩御抱え絵師尾形家を要とする、近世絵画を柱として据えながら、その他の彫刻、絵画、工芸も広く意識して扱うように努めている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく努めている。

○寺社所蔵資料の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。当館では、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げて、そこに伝わる造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を考えることを通して地域の特色を把握しようという調査研究を核としながら、特定地域の造形遺品について集中的に調査を行うことで、その地域の特色を浮かび上がらせようとする調査研究や、地誌をはじめとする各種史資料や、市町村の文化財担当者から得られた情報に基づく調査研究などを、臨機的に組み込みながら調査研究を進めている。

30年度は、主として宗像市内と宇美町内の寺社を中心としながら、仏像をはじめとする文化財の調査を行った。宗像市においては、隣船寺の聖観音立像（平安時代）、永島良雪像（江戸時代）、用山阿弥陀堂の阿弥陀如来坐像（平安時代）、梅谷寺観音堂の千手観音立像（正安3年・1301年）、平山大師堂の阿弥陀如来立像（平安時代）、神将形立像（平安時代）、上善寺大日堂の胎藏界大日如来坐像（平安時代）などについて、写真撮影と調書の作成を行った。宇美町においては、明治初めの神仏分離までは宇美八幡宮の神宮寺である極楽寺に安置されており、現在は近隣の須恵町の新原地蔵堂に安置されている、阿弥陀如来立像（平安時代）と薬師如来坐像（平安～鎌倉時代）のうち、当館では未調査であった後者について写真撮影と調書の作成を行うなどし、そして宇美八幡宮所蔵絵画の悉皆的調査を行うなどしている。なおこれらは、『新修宗像市史』、『宇美町誌』の編さんにかかる調査である。その他、長門市教育委員会の依頼で、山口県長門市向具津の向徳寺の薬師三尊像の調査を行い、応永年間の銘文をもつ、当地における室町時代の基準作の一つであることを確認、長崎県諫早市からの依頼で、市内寺院の仏像の概要調査を行うなど、各県ないし市町村からの依頼による調査も適宜組み込みながら行っている。



宗像市上善寺大日堂大日如来坐像



新原地蔵堂薬師如来坐像
(宇美八幡宮旧仏)

○九州に偏在する大陸系彫刻の調査研究

九州に偏在している、中国の明時代以前の彫刻、朝鮮半島渡来の彫刻について、調査と研究を進めている。中国の明時代以前の彫刻については、奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも進んでいなかった調査を前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、調査と研究を進めているものである。調査は木彫像や塑像等にとどまらず、九州西側にのみ存在する中国

製石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、また中国製石造物である宋風獅子までを対象としている。薩摩塔については、これまでは九州西北部を主たる調査対象地としてきたが、薩摩における調査の充実が必要であると判断されたため、現存する薩摩塔の中で最大の作例である、鹿児島県南九州市の水元神社の薩摩塔の概要調査を改めて行うなど、新たな展開を始めているところである。なお、前年度に調査を行った福岡市東区箱崎の、恵光院の石造十一面観音坐像を中心とする、筥崎宮周辺の中国渡来石造物については、当館の研究論集44にて調査報告と考察を行っている。



水元神社薩摩塔



恵光院十一面観音坐像

○福岡県内の絵画調査と研究

九州や福岡県域の歴史や文化の特質を明らかにし、美術のあり方について考える上で、絵画は重大な意義をもった存在である。これまではその中で、仏像と同様に礼拝対象となる仏画については、少しずつ調査研究を重ねてきたものの、例えば寺社にあっても、尊像を核とする空間を荘厳していた絵画作品や、私的な空間や折々の集まりをさまざまに彩る江戸時代から近代にかけての絵画作品などは、本格的に手を着けることができていなかった。商家等に、江戸時代から近代にかけての絵画作品が、多量に伝わっているという情報をしばしば耳にしながらも、これまでは十分な対応を行うことができていなかった。しかし絵画担当職員が配置されたことから、現在では福岡県域における絵画の本格的な調査と研究を開始している。

絵画については、福岡藩の御抱え絵師であった尾形家について、昨年度に引き続き調査研究を行っている。今年度は、福岡県立美術館に所蔵される尾形家絵画資料中の画稿類に着目し、絵巻と尾形家第三代守房制作の画稿について調査を行った。

絵巻の画稿については、平成29年度に尾形守房筆「藤原秀郷龍宮城図」画稿の調査を行い、筑紫女学園大学との共同研究で詞書の翻刻と考察を行った。この成果は、今年度夏に刊行された『筑紫女学園大学人間文化研究所年報』第29号の「福岡藩御抱え絵師の研究（一）尾形家絵画資料 尾形守房筆「藤原秀郷龍宮城図」画稿～金戒光明寺本との比較を中心に～」において公開している。今年度は、新たに尾形喜六筆「大江山絵巻」画稿の調査を行い、詞書の翻刻を進行中である。

尾形家第三代守房制作の画稿については、福岡県立美術館の協力を得、悉皆調査を行った。136点の画稿について、調書の取り直しや、重要な画稿の写真の撮り直しなど、基礎的なデータを取り揃えた。過去に尾形家絵画資料全体の目録化はなされているが、個々の絵師に注目した画稿研究は未だなされていないため、これを足掛かりとして、今後尾形家の絵師について個別に掘り下げてゆきたいと考えている。なお、調査の成果は『九州歴史資料館研究論集』44の「守房の画稿―尾形家絵画資料より―」にまとめている。

その他、太宰府市が行っている太宰府絵師調査にも、絵画担当職員が調査員の一人として参加している。昨年度は、全国に名の知られた文人である吉嗣拝山を核とする、吉嗣家の絵画資料調査に参加したものである。江戸時代の絵画は、御抱え絵師のみによって制作されていたわけではなく、彼らを柱としながらも、文人画家たちや町絵師たちによっても制作され、それらの創作の総体であった。それゆえに当該地域で活動している文人画家や町絵師立ちについても、調査研究を行ってゆく必要があり、そのような観点から調査に参加しているものである。ま



尾形守房筆役行者
図画稿

県内各地域の様相についても情報収集を進めて、来たるべき総合的な調査に備え、ひいては御抱え絵師を要としながら、福岡県域や九州の江戸時代の絵画について、その総体を構造的に把握することを目指したい。

○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々をはじめとする文化財について、受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば極力再び地元で保管するというのを、理想の形として心がけている。また、県指定文化財を安置する堂宇や収蔵庫の建て替え等に伴う一時保管を行うこともある。昨年度に大きな動きがあったものとしては、年末に、福岡市美術館のリニューアルに伴う工事をうけて保管依頼を受けていた、同美術館所蔵の、東光院の仏像を中心として近代の彫刻までを含んだ美術工芸品の数々を、福岡市美術館に返却したというものがあつた。リニューアル工事の終了をうけてのことである。

◎考古基準資料調査

○古代玄界灘における漁労活動の調査研究

本研究は、玄界灘沿岸地域における弥生～古墳時代の遺跡出土漁労具から、弥生～古墳時代の漁法を復元し、古代の漁労活動や漁労集団、生産活動について検討を加えるものである。30年度は、対象地域の弥生～古墳時代の遺跡出土漁労具について集成作業を実施した。また近世・近代の漁労具等民俗例との比較研究のため、県内外の関係する民俗資料の調査を実施した。

○山岳霊場・信仰遺跡における空間構造の復元的研究 - 豊前等覚寺を事例に -

本研究は、28年度から実施しているもので、福岡県京都郡苅田町の等覚寺関連の遺跡を考古学的に調査するものである。本年度は関連調査として彦山六峰の求菩提山、松尾山、桧原山の現地踏査と松尾山護摩壇については、三次元データ作成、松会に関連するお田植祭・お田植式の民俗調査、さらには、等覚寺周辺遺跡（龍智窟・龍ヶ鼻権現・千仏不動窟・青龍宇窟等）の踏査・ドローン撮影、青龍窟・龍智窟・内尾薬師の薬師像などの三次元データ作成等を実施した。

また、等覚寺および彦山六峰の山岳修験に関わる考古資料、文献史料、民俗資料の現物調査を実施し（実施機関はみやこ町歴史民俗資料館・求菩提資料館・上毛町歴史民俗資料館・桧原山正平寺・中津市教育委員会・等覚寺区・苅田町歴史資料館等）、それらの調査成果を総合的に集約し、秋に特別展「等覚寺の山岳信仰と松会」を苅田町歴史資料館にて開催した。開催に併せ、「等覚寺の山岳信仰と松会」のガイドブックを作成し、最新の調査成果を盛り込むことができた。会期中には、シンポジウム「等覚寺の山岳信仰と松会」も開催、研究代表の岡寺の他、研究協力者の山本義孝氏（袋井市歴史文化館館長）、國生知子氏（甘木歴史資料館副館長）、若枚善満氏（苅田町教育委員会）の各氏が調査報告を行い、その後パネルディスカッションを行い、100名以上の参加者を数えることができた。

令和元年度には、調査内容を取りまとめた報告書を刊行する予定である。

○手書き遺構実測図のCADデータ化作業と遺構分布の空間分析

本研究は、大宰府政庁跡及び周辺官衙跡の手書き遺構実測図のデジタル画像を基にCADデータを作成し、デジタルデータ上で遺構や遺構間の計測をし、遺構分布の空間分析を行うものである。30年度は遺構配置を検討する上で参考にするため、古代城柵官衙遺跡検討会への出席や仙台郡山官衙遺跡、多賀城跡などの現地調査を行った。

○大宰府政庁跡、観世音寺および周辺官衙域出土初期貿易陶磁器研究

大宰府政庁跡、観世音寺および周辺官衙域から出土している初期貿易陶磁器（越州窯青磁、邢州窯白磁、長沙窯黄釉褐彩陶）について、各遺物の出土場所（遺構など）を精査し、共伴遺物などの調査を行う。出土したその遺跡や遺構がどのような場所であったかを考え、初期貿易陶磁器の機能（何に使用し

たのか)を復元する研究である。遠藤啓介「大宰府政庁跡出土の初期貿易陶磁器に関する予察」『大宰府史跡発掘調査50周年記念論文集』高志書院2018を発表している。

○福岡県内城下町出土の近世陶磁器研究

柳川市内上町遺跡より出土した良好な近世初期(16-17世紀)の陶磁器(中国・朝鮮・日本)の調査に伴い、福岡県内の城下町出土の近世陶磁器について調査を開始した。なお、今後は福岡県内の近世陶器(高取焼および上野焼)の編年研究にも着手したい。

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

29年度から、古代大宰府の部内諸司に関する基礎的研究を開始し、出土文字資料や既存の文献史料、大宰府史跡の発掘調査成果をふまえながら、古代大宰府において、様々な職掌を遂行した部内諸司の機能や所在地についての解明を進めている。30年度までの研究成果は、12月15日(土)に九州国立博物館において、大宰府史跡発掘50年記念シンポジウム「展望・大宰府研究 大宰府の官衙—大宰府政庁周辺官衙跡の調査から—」を実施して公開した。

さらに、当館所蔵の大宰府史跡出土木簡について、28年度より重要文化財指定に向けた再調査を進めており、31年3月18日(月)に文化審議会より、1300点余の木簡のうち、古代官衙である大宰府の活動によって作成された飛鳥・奈良・平安時代の木簡113点を、重要文化財に指定するようにとの答申がなされた。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。30年度は、県史編纂史料に含まれる県内の小規模鉄道・軌道等に関する計画・経営史料などをもとに、県内の鉄道史に関する講演を随時実施した。また、みやま市と協力し、永江文書に含まれる明治20年代の町村議会の議会史料を参照し、当時の町村予算の動向等を調査した。

○県内所在資料の調査研究

29年度より、福岡県戦争遺跡調査の一環として、関係文献資料調査を実施している。こちらは既刊行史料、特に自治体史の集成が主な作業内容で、県下全域における自治体史の戦争・軍事関連項目の記述、およびこれに関する史料を対象として、網羅的に実施するものである。30年度は29年度に引き続き、九州歴史資料館に収蔵されている自治体史を悉皆調査し、各自治体史の戦争・軍事関連記述および史料の集成表の作成を継続した。この他に福岡県内において編制された陸軍の連隊史・部隊史等も調査し、県内の陸軍部隊等の動向をより深く把握した。この集成結果の概要については、最終的には元年度刊行の調査報告書に、要約したものが掲載される予定である。

また、久留米市と協力して、古代・中世の高良大社文書の調査を行った。古代文書については、29年度より実施していた保存管理班との協力による、蛍光X線分析装置や赤外線スキャナー、実体顕微鏡などを使用した自然科学的調査とともに、料紙とその接続関係、印影などについて詳細な調査を行った。31年2月26日(火)に外部の専門家を招いて高良大社において、当館と久留米市が主催するワークショップを実施し、調査成果について総合的な検討を行った。現段階の成果は、今後、久留米市の文化財をテーマとする元年度特別展等において公開して行く予定である。

[学芸調査室保存管理班]

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率の測定や樹種同定などの事前調査、トレハロース含浸による強化処置、強化処置後の余分な薬剤を除去する表面処理といった工程で行っている。30年度は、3遺跡104点の保存処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析装置などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。30年度は31遺跡561点の保存処理を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

30年度は、有害生物の被害がみられたとして、太宰府市、柳川古文書館、久留米市中央図書館、中津市教育委員会および当館受け入れ資料について、処置を行った。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間をつうじて、第一展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。30年度、作業を行ったのは、福智町教委収蔵庫等であり、それぞれ収蔵庫内外に測定地点を定めデータログを設置、数カ月おきにデータ収集と定期点検を行った。調査により、年間の温湿度挙動の把握を行い、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案を行っている。

○各種文化財の科学的調査

30年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	粕屋町教育委員会	内橋カラヤ遺跡第2地点、江辻遺跡第4地点出土青銅鏡・骨器	蛍光X線分析	4.3
2	(公財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	祇園町遺跡出土木製品	赤外線スキャナ	7.25
3	久留米市教育委員会	高三瀦遺跡出土土器、久留米城下町遺跡出土鉄滓・石炭	デジタルマイクロスコープ	10.3
4	福津市教育委員会	八竜遺跡出土鉄刀子	X線CTスキャナ	1.9
5	熊本市教育委員会	二本木遺跡出土墨書土器	赤外線カメラ	2.19

上記のほか、館蔵資料については随時、科学的調査を実施している。

○外部機関への協力・研修など

国立アイヌ民族博物館CTスキャナ仕様策定委員会、(一社)文化財保存修復学会理事会に委員として出席した。また、博物館等の保存施設新築、改築をはじめ、遺物の保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談・支援依頼に随時対応している。

◎船原古墳出土資料に関する共同研究

25年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、26年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

今年度も引き続き、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。遺物のクリーニング作業は、花形杏葉、鉢状雲珠、金銅製馬鈴など合計180点行った。



30年度クリーニングを終えた船原古墳出土馬鈴

◎平成29年7月九州北部豪雨による被災文化財救援への対応

29年7月に発生した九州北部豪雨災害により水損した文書の応急的保存処置を行った。内容は、冷凍保存によるカビ繁殖防止、真空凍結乾燥法による乾燥処置、付着した土砂、カビのクリーニング、折れ、シワ等を伸ばすフラットニングやカビ、虫害が発生している資料への燻蒸処置である。

本年度は、個人蔵古文書、小学校資料、合計3件の作業を行った。なお、クリーニング作業については、朝倉市内に作業場所を設けて、実施した。



水損文書の処置作業風景

[文化財調査室文化財調査班]

文化財調査班の主たる業務は、国の機関や県及び外郭団体事業に関わる発掘調査及び報告書作成等である。加えて、29年度より3ヵ年をかけて基礎的な調査として「福岡県戦争遺跡調査」を実施しており、30年度は2ヵ年目となる。また、29年度に引き続き、県内市町村の埋蔵文化財担当者を対象とした「福岡県文化財担当職員研修」(全10回)を開催した。

◎発掘調査及び報告書作成

30年度の本発掘調査は、受託事業として一般国道210号浮羽バイパス建設事業関係(国土交通省九州地方整備局)1件、執行委任事業として主要地方道浮羽草野久留米線歩道設置事業関係(福岡県県土整備部)、東峰村営住宅中原団地建設事業(福岡県建築都市部)2件、計3件を実施した。

報告書は、受託事業として久留米・うきは工業用地造成事業(鷹取ヒゲジロ遺跡)1冊、執行委任事業として沖端川河川激甚災害対策特別緊急事業(保加町遺跡)1冊および都市計画道路現人橋乙金線事業(宮ノ前遺跡)1冊の計3冊を作成・刊行した。

以下、30年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、詳細については現在整理中であるため、詳細については刊行予定の本報告書に拠られたい。

○一般国道 210 号浮羽バイパス建設事業

新開遺跡（久留米市田主丸町）

新開遺跡は、筑後川と巨瀬川の間、河川の堆積作用によって形成された自然堤防上に立地し、平成12年度から15年度にかけて調査を実施した古代の集落遺跡である日詰遺跡の南西にあたる。遺構面は2面を確認した。第1遺構面は古墳時代後期から奈良時代にかけての集落跡で、竪穴住居跡22棟、掘立柱建物跡3棟、土坑6基、溝4条などが確認された。第2遺構面は弥生時代中期頃の集落跡であり、竪穴住居跡1棟、土坑19基、溝1条などを確認した。

なお、隣接するバイパス建設予定地内においても本調査地点から連続する集落跡が存在する可能性が高いことから継続して発掘調査を実施する予定であり、調査報告書に関しては継続調査の成果とあわせて次年度以後に刊行する予定である。



新開遺跡（左：遠景、右：調査地全景）

○主要地方道浮羽草野久留米線歩道設置事業

三明寺古墳群（久留米市）

三明寺古墳群は、耳納山麓から巨瀬川に向かって北流する王子川によって形成された扇状地上に立地する。

調査地は王子神社境内及び隣接する宅地で、現在の王子神社社殿は古墳墳丘上に建てられたものと考えられていた為、本発掘調査を実施した。

表土直下に約1mを計る土石流堆積物層を確認し、その下層にあたる扇状地堆積層から柱穴を検出した他、弥生時代から近世にかけての遺物が出土した。古墳に関わると考えられる遺構や遺物は確認できなかった。

今回の調査結果については令和元年度に調査報告書を刊行する予定である。



三明寺古墳群

○東峰村営住宅中原団地建設事業

中原遺跡（東峰村）

中原遺跡は、宝珠山川右岸の小規模な扇状地上に立地する。耕作土、床土を除去すると基盤層となり、既に人工的な改変が随所で見受けられた。調査の結果2棟以上の掘立柱建物跡を検出した他、土坑、溝等を確認した。掘立柱建物の柱穴の一部には柱根が現存していた。出土遺物は中世から近世にかけての土器や陶磁器で、主体は



中原遺跡

近世の遺物である。

今回の調査結果については令和元年度に調査報告書を刊行する予定である。

30年度文化財調査班実施の発掘調査および作成報告書一覧

発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査内容	調査原因
新開遺跡	久留米市田主丸町豊城	2,600	180622～190313	集落	国道バイパス建設
三明寺古墳群	久留米市田主丸町竹野	112	180613～180731	散布地	県道歩道設置
中原遺跡	東峰村大字宝珠山	300	181205～190118	集落	村営住宅建設

作成報告書

タイトル	シリーズ	調査原因
鷹取ヒゲジロ遺跡	久留米・うきは工業団地造成事業関係埋蔵文化財調査報告	工業用地造成
保加町遺跡	福岡県文化財調査報告書第270集	河川激甚災害対策
宮ノ前遺跡	福岡県文化財調査報告書第271集	県道建設

◎福岡県戦争遺跡調査

明治維新による近代化が始まってから150年、太平洋戦争が終結してから73年が経過し、土地に残された近代の遺産や戦争の痕跡も急速に失われつつあり、戦争に対する人々の記憶も次第に薄まりつつある。

そのような中で福岡県では、県内に所在する近代以降の全ての戦争遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を行うこととした。29年度から基礎調査をはじめ、令和元年の3ヶ年で報告書としてまとめる。

2年目となる30年度は、初年度に実施した県内各市町村へ戦争遺跡の調査票を元に重点調査を実施した他、教育庁文化財保護課を事務局として有識者5名からなる「福岡県戦争遺跡調査指導委員会」第2回の委員会を4月24日（土）行橋市で、第3回の委員会を10月27日（土）に小郡市で開催した。委員会では現地視察を行った後に調査経過を報告し、これからの調査の進め方などを確認した。



指導委員会（現地視察：大刀洗北飛行場掩体）

福岡県戦争遺跡調査指導委員会委員名簿（30年3月31日現在）

	氏名	所属等	専門
委員長	有馬 学	福岡市博物館長 九州大学名誉教授	日本近代史
委員	三輪 宗弘	九州大学附属図書館教授	日本近代史
	土田 宏成	神田外語大学教授	日本近代史
	齋藤 達志	陸上自衛隊幹部学校教官	戦史
	伊藤 慎二	西南学院大学国際文化学部准教授	考古学

〔文化財調査室調査研究班〕

調査研究班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。30年度は大宰府史跡の調査として発掘調査4件を行い、報告書1冊を刊行した。

◎大宰府史跡の発掘調査・報告書作成

30年度は、大宰府史跡発掘調査第10次5ヶ年計画の2年次にあたり、蔵司地区官衙跡の重点発掘調査を実施した。第236次調査については今年度も継続中である。

また、観世音寺境内及び子院跡附老司窯跡で1ヶ所、大宰府政庁周辺官衙跡で2ヶ所の確認調査を実施し、蔵司地区官衙跡で1ヶ所の災害復旧事業を実施した。

30年度大宰府史跡調査一覧

調査次数	調査地区略称	面接 (㎡)	調査期間	調査地区
大宰府史跡第236次調査	6AYT-A-F・T	969.0	20180416～20190326	蔵司地区官衙跡
大宰府史跡第239次調査	—	15.0	20180614	観世音寺子院跡
大宰府史跡第240次調査	6AYT-F	34.0	20190216～20190325	蔵司地区官衙跡(災害復旧)
大宰府史跡第241次調査	6AYM-A-R	5.1	20181119	前面広場地区
大宰府史跡第242次調査	6AYL-A-B-A	19.0	20181205～20181207	来木地区

報告書は、『大宰府史跡発掘調査報告書X 平成28・29年度』を刊行した。

○大宰府史跡第236次調査(蔵司地区官衙跡)

蔵司地区は大宰府政庁跡の西側に位置し、「蔵司」の地名から、大宰府の財政的機能を担った官衙の存在が想定されてきた。

九州歴史資料館では、21年度より蔵司地区官衙の構造解明に向けた調査を実施している。21～25年度は遺構の分布や現況の地形の成因などを探るための確認調査、26年度以降は確認調査成果に基づく重点調査を実施している。

第236次調査地は丘陵南東部の広い平坦面である。過去の調査(第230次調査)では、倉庫跡とみられる礎石建物2棟がみつかり、その東隣に位置する。

30年度の調査では、新たに4棟の礎石建物と1棟の掘立柱建物を確認した。

230次調査で確認した2棟の礎石建物と、今回調査した4棟の礎石建物は、「コ」字状になるように配置されており、中央には空閑地が広がることを確認した。また、掘立柱建物は礎石建物に先行する時期の遺構であることも確認した。

令和元年度は、蔵司丘陵南側の確認調査を引き続き実施する予定である。

○大宰府史跡第239次調査(観世音寺境内及び子院跡附老司瓦窯跡)

調査地は観世音寺背後の四王寺山山麓に位置し子院群が推定される場所である。

遺構の有無及び旧地形の残存状況、盛土の厚さを把握するため、対象地に2ヶ所のトレンチを設定し確認調査を実施した。

調査の結果、当該地は宅地造成時に大きく削平を受け現状の宅地を形成していることが分かった。遺構・遺物は確認されなかった。

なお、調査終了後は記録を作成し、速やかに埋め戻して旧状に復した。



大宰府史跡236次空撮(上から)



大宰府史跡第239次1トレ(北から)

○大宰府史跡第 240 次調査（蔵司地区官衙跡災害復旧）

30 年度に発掘調査を実施していた、蔵司地区第 236 次調査区の一部及び隣接する丘陵法面が、7 月 3 日の台風 7 号及び 7 月 5 日～7 日の西日本豪雨により、幅 8.5m、高さ 1.2m の範囲で崩落したため、31 年 2 月 16 日から 3 月 25 日にかけて災害復旧を実施した。

事前の発掘調査では、礎石建物検出面で礎石建物 1 の礎石据付穴 2 基と雨落溝、下層整地検出面で一部硬化する平坦面を確認した。崩落部分の断面観察では、厚さ約 1.8m の上層整地面と、上下二段の平坦面からなる下層整地面を確認した。整地前の旧地形は 3m 以上の比高差がある谷地形であることも確認した。

なお、調査終了後は工事請負による災害復旧事業を実施した。工事内容は、まず仮設工として盛土による仮設路及び養生を行った後、改良土と改良土入り麻土嚢を設置して斜面復旧工を実施した。



大宰府史跡第 240 次土層写真（北東から）

○大宰府史跡第 241 次調査（前面広場地区）

大宰府政庁の前面には広場が設けられていたことが知られている。当該調査は前面広場地区内の住宅建替計画に伴い、事前に実施した確認調査である。想定された旧地形に沿って 2ヶ所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。

調査の結果、地山層及び御笠川の氾濫による堆積層を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。調査終了後は速やかに埋め戻し、旧状に復した。



大宰府史跡第 241 次調査 2 トレ（北西から）

○大宰府史跡第 242 次調査（前面広場地区）

政庁西側の来木丘陵では、古くから古代瓦窯跡群が発見されている。当該調査地は、来木丘陵の北東側斜面付近にあたる。30 年 7 月の豪雨災害にて法面表層土が崩落したため、復旧事業が実施されることとなった。そこで、復旧事業予定地の遺構の有無や遺構面までの深さを確認することを目的として、確認調査を実施した。

調査は窯跡の存在を想定して、斜面と直交する南北方向に 3ヶ所のトレンチを設定した。その結果、表土層や攪乱土層から古代の遺物が数点出土したが、窯跡等の遺構は確認されなかった。

調査終了後は速やかに埋め戻して旧状に復した。また斜面地についてはシートで被覆して養生を行った。



大宰府史跡第 242 次調査 3 トレ（南から）

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置して、同委員会の指導のもとに 5ヶ年計画を策定し、その計画に従い調査を進めている。

30 年度の指導委員会は、10 月 16 日（火）・17 日（水）



調査指導委員会の様子

の両日に開催した。

10月16日は、29・30年度に実施した発掘調査の成果を報告し、春日市が実施した天神山・大土居水城跡の発掘調査成果を併せて報告した。また、年度事業として実施した大宰府発掘50年記念事業の内容について報告した。現地視察では発掘調査中の大宰府跡蔵司地区と、春日市大土居小水城跡を視察した。

10月17日は、大宰府史跡の調査計画、大宰府関連遺跡として筑紫野市前畑遺跡第13次調査成果、今後の大宰府史跡の3点について審議された。

委員は以下のとおりである。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿 (31年3月31日現在)

	氏名	所属	専門
委員長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副委員長	佐藤 信	大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事	歴史学
委員	八木 充	山口大学名誉教授	歴史学
	狩野 久	元岡山大学教授	歴史学
	坂上康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	松村恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	考古学
	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
	箱崎和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	杉本正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
	尼崎博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	渡辺定夫	東京大学名誉教授	都市工学

◎大宰府外郭線の調査・大宰府外郭線部会

筑紫野市前畑遺跡第13次調査で確認された「土塁状遺構」については、大宰府都城の外郭線を構成する古代の遺構である可能性が指摘されたため、九州歴史資料館では関連区市町と連携して、大宰府外郭線を構成する遺構の有無や範囲を確認し、大宰府の構造を理解するための調査研究を行い、今後の保存活用の基礎資料とすることとなった。

【関連市町】

筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川市・宇美町・小郡市・佐賀県・佐賀県基山町

【30年度】

・大宰府外郭線検討会（関連市町との連携による調査研究）を年3回開催した。

・大宰府史跡調査研究指導委員会 大宰府外郭線部会を31年1月11日に開催した。



現地検討会

これまでの経緯、調査研究の方針、現在までの調査成果、今後の調査計画、について審議された。

	氏名	所属	専門
部会長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副部会長	坂上 康俊	九州大学大学院教授	歴史学
委員	亀田 修一	岡山理科大学大学院教授	考古学
	岩永 省三	九州大学総合研究博物館副館長	考古学
	末次 大輔	宮崎大学工学部教授	土木工学

◎古代歴史文化協議会

古代歴史文化にゆかりの深い全国14県が連携し、26年に「古代歴史文化協議会」が設立された。協議会では第1期共同調査研究テーマを「古墳時代の玉類」とし、各県連携して調査研究や成果の普及活用を行ってきた。

第1期テーマ「古墳時代の玉類」は30年度までとし、令和元年以降は「弥生・古墳時代の刀剣類」を第2期テーマとして調査研究を行っている。

【古代歴史文化協議会加盟県】

埼玉県・石川県・福井県・三重県・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・福岡県・佐賀県・宮崎県（14県）

【30年度】

- ・第8回研究集会を東京都で、第9回研究集会を福岡県で開催した。
- ・成果図書『玉ー古代を彩る至宝ー』を刊行した。
- ・江戸東京博物館で企画展『玉ー古代を彩る至宝ー』を開催した。会期中、ミュージアムトーク（島根県・奈良県・福岡県）、ミニ講座（各県）を開催した。

会期：平成30年10月23日（火）～12月9日（日） 観覧者数 60,234人

- ・九州国立博物館で特集展示『玉ー古代を彩る至宝ー』を開催した。

会期：平成31年1月1日（火）～2月24日（日） 観覧者数 49,351人



江戸東京博物館企画展「玉ー古代を彩る至宝ー」

◎宗像・沖ノ島と関連遺産群に係る調査研究

福岡県では世界遺産となった宗像・沖ノ島と関連遺産群にかかる調査研究を関係市町村とともに進めている。

- ・沖ノ島出土資料の整理・調査。
- ・津屋崎古墳群の調査・研究。新原奴山15号墳の発掘調査。12月～3月
- ・沖ノ島のモニタリング。11月6日（火）～11月8日（木）

◎平成29年度熊本地震の復旧・復興に伴う埋蔵文化財の発掘調査に係る専門職員の派遣

熊本県では28年4月に発生した地震からの復旧・復興に関連した再開発が本格化し、被災地域を中心に開発事業に係る埋蔵文化財の予備調査や記録保存のための発掘調査の急増に対応する必要性が生じている。文化庁、熊本県からの要請を受け、福岡県は29年度から埋蔵文化財専門職員を派遣し、他地方

公共団体とも連携しながら支援業務を行っている。30年度は通年で1名の職員を熊本県に派遣し、鹿児島県・静岡県の派遣職員及び熊本県内被災市町村に派遣された他縣市町村職員と連携しながら支援業務を行った。具体的な支援内容は以下のとおりである。

(1) 熊本県実施の予備調査

県道拡幅事業等に係る予備調査で、熊本県教育庁教育総務局文化課が主体となって実施した。主な事業は甚大な被害を受けた益城町と横断する県道熊本-高森線拡幅事業と、木山地区区画整理事業に伴うもので、事業課と協議を行いながら進捗に合わせて踏査及び試掘・確認調査を行った。また調査の中で地もと住民から様々な情報提供を受け、これらを整理して益城町にも情報提供を行った。

(2) 熊本県内被災市町村の予備調査・保存危篤の発掘調査の協力・支援

本来各市町村が主体となって対応する各自治体主体事業（災害公営住宅建設など）について、体制的



県道試掘調査



小学校現地見学

に対応困難な場合に、それらの支援も行った。これらは他自治体からの派遣職員との連携の中、また被災された方々を含む地元住民との連携で行った。それら成果は「現地説明会」「パネル展」「講演会」「近隣小学校の現地見学」の形で地元に戻し、益城町大辻遺跡には熊本県教育長も足を運んでいただき、現地説明会には約200名の参加者があった。

それぞれの事業を通して、全国各所の地方自治体の担当者と情報交換しながら連携し、活用事業や現場作業の中で地元住民の文化財保護への普及にも資することができた。今後災害発生時の対応についても得るところも多く、連携と相互支援の重要性を実感する派遣事業であった。

(2) 展示

◎常設展示

第1展示室では、「歴史(とき)の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代にいたる福岡県の歴史を、遺跡の出土品のほか、仏像・古文書・古地図などの実物資料の展示により、通史的に紹介している。福岡県さらには九州という広い視野から地域の歴史を学ぶことができる。文書や絵画資料については、資料の保全とリピーターの獲得を意図して約2ヶ月ごとに展示替えを行っており、その都度、足を運んでもらえれば新しい資料との出会いがあるようにしている。

第2展示室では、大宰府政庁中門の10分の1復元模型を展示するほか、九州の地形や四国・本州との位置関係がわかるように中央の床面に九州の衛星写真を設置している。

第3展示室では、福岡県内出土の弥生土器や須恵器・古瓦などを時期別に並べ、形や文様・調整技術の移り変わりがわかる展示を行っている。引き出し式のケースには、貿易陶磁などの破片資料を資料群として展示しており、資料本来の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代・縄文時代の炉跡や弥生時代の甕棺墓など、現地で保存することができない遺構を切り取って保存処理を施し、地中の遺跡を覗き込むような形で床下に展示している。

第1・3展示室については、天井高6m・面積200㎡を超える特定天井(吊り天井)であるため、耐震改修工事が必要となった。工事の内容としては、天井や設備を撤去した上で、天井下地を鉄筋で製作し、躯体と緊結して建物と一体化を図り、天井材および設備機器の再設置を行った。あわせて、天井照明をLED化し、タブレット等で遠隔操作できるスポットライトも新設した。改修工事自体は30年度末に完了したが、展示環境を整えるための養生期間も含めて平成30年8月14日(火)から令和元年10月11日(金)までの期間、第1・3展示室を閉室することにした。

それを補う目的で、常設展示品の中から考古資料を中心に展示資料を厳選し、企画展『歴史の宝石箱』ダイジェスト版」を第2・4展示室において平成30年12月4日(火)から令和元年3月17日(日)までの会期で開催した。詳細は企画展示の項目で報告している。

並行して令和元年度の常設展示のリニューアルに向けて、展示の内容や手法の見直しを行うとともに、内容の更新・充実のための資料調査・研究を行っている。なお、特別展を開催したのち、常設展示のリニューアルオープンとなるため、常設展示の公開は令和元年12月21日(土)からとなる。

<常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

- 第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第2章 弥生時代 稲作とクニ
- 第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第4章 古代Ⅰ 大宰府史跡
- 古代Ⅱ 西海道大宰府
- 古代Ⅲ 仏教美術
- 第5章 中世Ⅰ その後の大宰府
- 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第6章 近世 「太平の世」の福岡
- 第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ
- 近代Ⅱ 絵図の世界



第1展示室養生状況

◎特別展「大宰府への道—古代都市と交通—」

会期：30年4月24日（火）～6月17日（日）

会場：第1・4展示室

主催：九州歴史資料館

協力：大伴家持生誕1300年記念事業連携館（高志の国文学館、斎宮歴史博物館、高岡市万葉歴史館、東北歴史博物館、鳥取市因幡万葉歴史館、奈良県立万葉文化館、わくや万葉の里 天平ろまん館）

内容：平成30年（2018）は、昭和43年（1968）に大宰府史跡の発掘調査が始まってから50周年である。この節目の年にあたり、大宰府史跡の調査研究を主導して来た九州歴史資料館では、これまでの調査研究成果をふまえた最新の成果を紹介する特別展を開催した。

大宰府は、その成立期も含めると、7世紀から12世紀にかけて、国防と外交、西海道と呼ばれた九州地方の統治を担った古代最大の地方官衙である。その特殊な役割をはたすために、中国・朝鮮半島諸国、近畿地方の中央政府、九州島内および南島との交通の結節点に大宰府は置かれたと考えられる。

今回の特別展では、近年急速に解明が進みつつある都市としての大宰府、および飛鳥や奈良の都城、各地の国府の姿、さらにこれらを結ぶ交通に焦点をあてた。これによって古代日本および東アジアの交流拠点であった大宰府の重要性を浮かび上がらせ、発掘100年を見据えた研究と顕彰の起点となることを目指した。

また、関連イベントとして、3月18日（日）にプレ講演会「古代国家と道」（講師：大阪大学准教授 市大樹氏、文化庁文化財調査官近江俊秀氏、参加者数：200名）、会中には4月と5月のプレミアムフライデーに当館職員による夕べのギャラリートーク（4月27日、当館学芸員 酒井芳司、参加者数：13名、5月25日、当館学芸調査室長 小田和利、参加者数：24名）、4月から9月の第二土曜日に特別展関連講座の九歴講座を実施した（講師：4月14日、当館学芸員 酒井芳司、参加者数：108名、5月12日、当館学芸研究班長 松川博一、参加者数：112名、6月9日、福岡県教育庁文化財保護課技術主査 下原幸裕、参加者数：98名、7月14日、大野城市教育委員会 石木秀啓氏、参加者数：105名、8月11日、太宰府市教育委員会 井上信正氏、参加者数：115名、9月8日、福岡市博物館 菅波正人氏、参加者数：93名）。さらに、5月20日（日）に記念茶会（主催：当館・小郡市文化協会 裏千家、参加者数：527名）、6月3日（日）に記念特別講演会「大宰府への道—文明のクロスロード—」（講師：大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事 佐藤信氏、参加者数：185名）を開催した。会期中の入館者数は5227人である。

特別展終了後も、大宰府史跡関係の市町や公益財団法人古都大宰府保存協会、九州国立博物館と協力して、



特別展「大宰府への道」ポスター



特別展展示風景 1



特別展展示風景 2

「大宰府史跡発掘 50 年記念事業」の企画展、イベント、講演会等を各機関にて、31 年 3 月まで随時開催した。

特別展は、50 年に及ぶ大宰府史跡の調査研究成果の到達点を示すことができた。また記念事業全体を総じて大宰府史跡関係機関と広く連携し、発掘 50 年の節目の年を盛り上げ、一般市民にも周知できた。

主な展示資料：重要文化財 鬼瓦 大宰府跡出土（九州国立博物館）、観世音寺古文書（国立公文書館）、緑釉軒丸瓦・緑釉軒平瓦 平城宮東院跡出土・鬼瓦 平城宮跡出土・国宝 木簡 平城宮跡出土・重要文化財 円形榿先瓦 山田寺跡出土（奈良文化財研究所）、重要文化財 兜跋毘沙門天立像・重要文化財 銅製天蓋光心・観世音寺絵図（観世音寺）、国宝 元暦校本万葉集古河本 巻第 4・国宝 延喜式 九条家本 巻 28・重要文化財 銅印「遠賀団印」 太宰府市観世音寺出土、高野大師行状絵巻 摸本 巻 2・3 狩野清川院養信筆（東京国立博物館）、熊本県指定重要文化財 豊後国風土記 細川幽齋奥書（公益財団法人永青文庫）、重要文化財 隠岐国駅鈴（個人）、佐賀県指定重要文化財 木簡「戌人」 唐津市中原遺跡出土（佐賀県教育委員会）、福岡県指定有形文化財 篋書須恵器「和銅六年」 大野城市牛頸窯跡群出土（大野城市教育委員会）、筑紫野市指定有形文化財 篋書須恵器「和銅八年」 大宰府条坊跡出土（筑紫野市教育委員会）、重要文化財 筑前国嶋郡川辺里大宝二年戸籍断簡（奈良国立博物館）、滑石製形代・奈良三彩 大島御嶽山遺跡出土（宗像大社）、国宝 智証大師関係文書典籍 円珍請伝法公驗奏状案（清書本）・太政官給公驗牒（先本）（園城寺）など。

総点数：141 件 246 点（国宝 4 件 8 点、重要文化財 6 件 6 点、県指定文化財 4 件 5 点、市指定文化財 1 件 1 点を含む）

図録：A4 版、206 頁、印刷部数 2,500 部（販売部数 2,000 部）、頒価 1,000 円

◎企画展示

30 年度は、第 1 展示室の一部および第 2・4 展示室を会場として、4 回の企画展を実施した。企画展は、例年、学校教育支援を目的としたもの、文化財調査室が行う発掘速報展、館蔵品を紹介するコレクション展、第 1 展示室の約 3 分の 1 を使って行う大型の企画展というラインナップとなっている。30 年度は、第 1 展示室が天井の耐震改修工事にともなって 8 月 14 日以降閉室だったため、企画展の回数が例年に比べて少なくなっている。

春には小学 6 年生の歴史学習を支援する第 45 回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」を開催し、今回は古墳時代の展示の充実を図った。恒例の展覧会となった第 47 回企画展「発掘速報展 2018ー近年の調査成果と大宰府史跡発掘 50 年の歩みー」では、みやこ町の伊良原地区の遺跡や柳川市の本町・上町遺跡、筑後市の彼岸田遺跡などの近年の発掘調査成果を紹介するとともに、大宰府史跡発掘 50 年を記念して、大宰府政庁周辺官衙跡蔵司地区の出土品や発掘のあゆみを振り返る写真パネルを展示した。

30 年度に特徴的な企画展としては、福岡県が 24 年度から 5 ヶ年をかけて実施した福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査事業の完了記念の成果展の第 2 弾として 29 年度の第 42 回企画展「福岡県の城ー戦国乱世の城から幕藩体制の城へー」につづき、第 46 回企画展「幕末の城ー近世の沿岸警備と幕末期城郭ー」を開催した。本展は明治維新 150 年の記念展でもあり、近世の沿岸警備に関わる福岡県や周辺の遠見番所・烽火台などの防衛施設のほか、幕末に築造された「城郭」についても紹介した。常設展示の項でも前述したとおり、第 1 展示室の閉室を補う展示として第 48 回企画展『『歴史の宝石箱』ダイジェスト版』を開催した。また、九州歴史資料館・苅田町歴史資料館共同開催特別展として、苅田町歴史資料館を会場に、「等覚寺の松会」国重要無形民俗文化財指定 20 周年記念特別展『等覚寺の山岳信仰と松会』を 30 年 11 月 3 日（土・祝）から 12 月 16 日（日）までの会期で開催した。

○第 45 回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」

会期：30 年 3 月 6 日（火）～9 月 2 日（日）

会場：第2・4展示室

内容：福岡の大昔の人たちは、どのような服を着たり、食べ物を食べたりしてくらしていたのか。また、日本の国はどのように形作られてきたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクター・きゅうおにが、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代をタイムトラベルをしながら探る展覧会である。

教育普及の観点を重視し、小学校高学年の歴史学習がより楽しく、わかりやすくなる展示とし、実物資料のほか、レプリカやイラストパネルを多用した結果、第1展示室では実践しにくかった、子どもたちにもわかりやすい展示を実践した例となった。

会期中には、小郡市内の小学校6年生の社会科見学の一環として、当館の利用が多数見られた。

なお、当展覧会は、24年度から毎年行っているが、昨年から古墳時代の章を新設し、これによって縄文時代から古代まで、通史で展示ができるようになった。

また、年度後半の31年3月18日（火）から、当企画展とほぼ同じ内容にて第49回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」を開催している（詳細は平成31年・令和元年度年報に掲載予定）。

○福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査成果展②

第46回企画展「幕末の城ー近世の沿岸警備と幕末期城郭ー」

会期：30年6月30日（土）～8月12日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：第1展示室（中世・近世・近代コーナー）

内容：江戸時代は鎖国あるいは天下泰平の世の中として、戦いのない平和な時代という印象がある。確かに一国一城令に象徴されるように、幕府による各藩に対する築城規制を初めとする軍事力抑制があったのも事実である。しかしながら長崎警備など異国船に対する沿岸警備は江戸時代を通じて行われ、各地には遠見番所や烽火台などが築かれ運用されていた。さらに幕末における攘夷・倒幕運動の中、各藩は沿岸防備のための台場や「御殿」や「別館」の名目で新規に築城を行い、軍事力の増強を図っていった。幕末はさながら「築城の時代」とも呼ぶことができる。福岡県教育委員会では、24年度から28年度まで実施した「福岡県中近世城館遺跡等詳細分布調査」において、近世城郭のほか近世の遠見番所・烽火台・台場・野戦陣地などの関連遺跡についても調査の対象とし、県内におけるそれらの概要を調査・把握した。調査の中では未知の台場・遠見番所を現地で発見するなどの成果も挙げている。

本展では調査事業の成果に基づき、また江戸時代が終幕した明治維新150年を記念し、文献史料、絵図資料、出土資料の展示を通じて、福岡県および周辺地域の近世の遠見番所・烽火台などの防衛施設、さらには幕末期に築造された「城郭」について紹介した。

なお、関連事業として、企画展開催記念講演会を7月22日（日）13:30～16:00に開催した。最初に調査報告「福岡県における幕末期城郭と遠見番所・烽火台・台場」（岡寺 良（九州歴史資料館））を行った後、記念講演「台場から読み解く幕末ー徳川幕府をめぐる政局と海防ー」（中西裕樹（高槻市教育委員会文化財課））を開催、177



きゅうおにとタイムトラベルの展示風景



企画展「幕末の城」ポスター

名の参加があった。

また、7月27日（金）には、ギャラリートーク（展示解説）を岡寺が行い、27名の参加があった。

◎第47回企画展『発掘速報展 2018 -近年の調査成果と大宰府史跡発掘 50年のあゆみ-』

会期：30年9月11日（火）～12月2日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：第2・4展示室

内容：九州歴史資料館は県内各地に所在する遺跡の発掘調査を実施し、福岡県の歴史を知る上で貴重な成果を挙げている。その成果を普及公開する活動の一環として、23年度より企画展「発掘速報展」を実施してきた。

本年度は、昨年度調査・報告が完了した伊良原ダム関係調査など、近年調査・報告がなされた遺跡の調査成果を紹介すると共に、大宰府発掘調査50年にあたる本年にちなみ、トピックとしてパネル展示を行った。また、関連映像として、会場内において伊良原（福岡県京都郡旧犀川町（現・みやこ町））の民俗映像を上映した。なお、会期中の10月26日（金）には、来館者への夕べのギャラリートーク（展示解説）等を開催し、16名の参加を得た。



発掘速報展 2018 展示風景

<展示構成>

- (1) 伊良原の遺跡群（京都郡みやこ町）
- (2) 彼岸田遺跡（筑後市）
- (3) 上町遺跡（柳川市）
- (4) 本町遺跡（柳川市）
- (5) 大宰府史跡・蔵司地区（太宰府市）
- (6) トピック：大宰府史跡発掘50年のあゆみ

◎第48回企画展「歴史の宝石箱 ダイジェスト版」

会期：30年12月4日（火）～3月17日（日）

会場：第2・4展示室

内容：当館では、第1展示室において常設展を「歴史の宝石箱」と題して、福岡県を中心にして旧石器時代から近代にいたる考古、文献、仏教美術、工芸など多岐にわたる文化財を紹介し、福岡の歴史が分かりやすいなど好評を得てきた。

しかし、30年10月より第1展示室が改修工事のため、ほぼ1年にわたり常設展示を見ることができない。そのため、本展覧会では第2展示室を使用し、そのダイジェスト版として考古資料を中心に旧石器時代から江戸時代について紹介を行った。

あわせて第4展示室ではダイジェスト版では紹介できない考古資料以外の文化財（古文書や仏教美術など）を写真パネルで紹介した。



歴史の宝石箱 ダイジェスト版展示風景

◎パネル展

パネル展は、県内各地に残る多様な文化財を紹介し、またこれまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、当館2階文化情報広場等において実施している。

30年度は、例年行っている西谷正名誉館長の写真展、福岡県内の鉄道遺産、保存科学機器による最

新成果を紹介するパネル展などのほか、世界文化遺産に登録された『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』のパネル展も開催した。また正面玄関右側の回廊では、三沢遺跡を紹介するパネル展も行った。

○ 30 年度パネル展「シルクロードの文化遺産（2）—草原の道—」

会期：30 年 6 月 19 日（火）～9 月 9 日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：文化情報広場

内容：シルクロードはかつて、ユーラシア大陸の間で人・物・文化の交流を担った交通路である。この沿線地域には、数多くの遺跡や遺物など、歴史的に重要な文化遺産がある。シルクロードを通った文物や文化の中には、九州を経て日本へと伝わったものもあり、これらの文化遺産は、九州や日本の歴史・文化にも関連のあるものといえる。そしてこのシルクロードの文化遺産については、当館の西谷正名誉館長が長年研究を行い、数多くの写真を撮影されてきた。平成 28 年度には、パネル展「シルクロードの文化遺産（1）—オアシスの道—」を開催している。

シリーズ 2 回目の展示となった本展では、北方を通る草原の道を取り上げた。特に、ロシア・中国・モンゴル三国の国境付近に位置するアルタイ山脈一帯の文化遺産を取り上げ、同地の墳墓や出土品の数々を紹介した。

なお、令和元年度においては、シリーズ第 3 回目として、「シルクロードの文化遺産（3）—海の道—」を予定している。

○ 30 年度パネル展・世界遺産登録 1 周年記念「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」

会期：30 年 9 月 11 日（火）～12 月 9 日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：文化情報広場

内容：宗像市沖の玄界灘に浮かぶ沖ノ島は、古代より日本と大陸との海上交通の拠点であり、また信仰の島として多くの文化財を残してきた。福岡県ではこの沖ノ島について、宗像市等の関連遺産も含めた上で、ユネスコの世界文化遺産に登録する活動を推進し、平成 29 年度には『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』として、世界遺産への登録が実現している。

本展では世界遺産登録 1 周年を記念し、福岡県世界遺産室が新しくリニューアルした『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群』に関するパネルを展示した。沖ノ島の信仰や祭祀に関するパネルを中心に、関連遺産群まで含めて詳しく紹介し、福岡県が誇る世界遺産について、幅広く紹介する展示とした。

○ 30 年度パネル展・平成筑豊鉄道開業 30 周年記念「福岡鉄道遺産ものがたり 6～平成筑豊鉄道編～」

会期：30 年 12 月 11 日（火）～31 年 3 月 17 日（日）

主催：九州歴史資料館

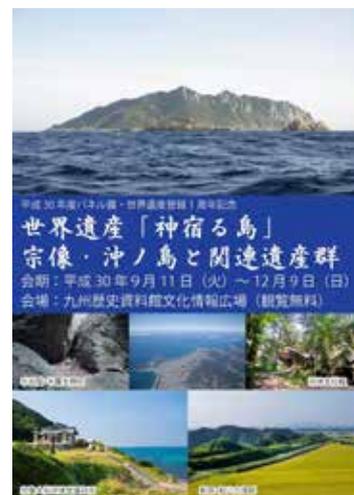
後援：平成筑豊鉄道株式会社

会場：文化情報広場

内容：近代の福岡県では、濃密な鉄道網が形成され、戦前から数多くの鉄道施設も建設されてきた。これらの鉄道施設の中には、今なお「鉄道遺産」として現存しているものもある。これらは、近代における福岡県の交通を物語る貴重な文化遺産でもあり、当館ではこれまでも「福岡鉄道遺産ものがたり」シ



「シルクロードの文化遺産（2）—草原の道—」ポスター



「世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」ポスター

リーズとして、5回に渡り県内各地の鉄道遺産を紹介してきた。

シリーズ6回目の本展では、31年に第三セクターとしての開業30周年を迎えた平成筑豊鉄道を取り上げた。同社路線の多くは明治時代の開通で、国登録有形文化財に登録されている橋梁、トンネルをはじめ、駅舎、接続路線の廃線跡なども取り上げ、路線そのものが文化財ともいえる同社の鉄道遺産を紹介する展示とした。

○30年度パネル展 平成30年度筑紫地区文化財写真展「ちくし再発見～弥生ものがたり～」

会期：31年3月19日（火）～3月24日（日）

主催：筑紫地区社会教育振興協議会 文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

会場：文化情報広場

内容：筑紫地区文化財写真展は、筑紫地区（大野城市・春日市・太宰府市・筑紫野市・那珂川市）の文化財を紹介すべく、毎年実施される巡回パネル展である。今回のパネル展では、「弥生ものがたり」をテーマとし、筑紫地区で発掘された弥生時代に関する多種多様な文化財の写真を展示した。

○30年度パネル展 保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2018 - 2019」

会期：31年3月26日（火）～元年6月16日（日）

主催：九州歴史資料館

会場：文化情報広場

内容：全国的に注目を集めている古賀市船原古墳では、遺物埋納坑出土馬具を中心に様々な科学的調査が進められている。30年度までに実施した調査や保存処理により明らかになった最新情報をパネルで紹介した。



「福岡鉄道遺産ものがたり6
～平成筑豊鉄道編～」ポスター



「ちくし再発見～弥生ものがたり～」展示風景



30年度保存科学成果展展示風景

(3) 資料利用

本館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、平成30年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、25年度から、土日の閲覧希望にも、基本的に対応するようになった。30年度の実績は考古資料貸出55件、同一時利用39件（延べ40日間）、写真資料貸出・掲載許可121件、文書・典籍資料貸出7件、同一時利用40件である。

考古資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	大宰府展示館	3	大宰府政庁跡出土円面硯等	常設展示のため	30.4.20～7.3
2	文化庁	27	皆見大塚古墳出土馬具等	「発掘された日本列島2018」の展示のため	30.5.1～31.3.5
3	荒神谷博物館	12	西新町遺跡出土土器等	「奴国（弐）～クニを支えた人とモノ」の展示のため	30.7.5～9.7
4	大野城心のふるさと館	2	仙道古墳出土盾持人埴輪等	「顔～The Face～展」の展示のため	30.7.3～11.4
5	甘木歴史資料館	31	須玖岡本遺跡出土鉄剣等	「平塚川添遺跡と邪馬台国の時代」の展示のため	30.6.19～9.10
6	九州国立博物館	1	大宰府政庁周辺官衙跡・不丁地区出土箸	「海の道、アジアの路」（平常展）の展示のため	30.9.4～31.1.31
7	大阪府立近つ飛鳥博物館	22	若八幡宮古墳出土三角縁二神二獣鏡等	「4世紀のヤマト王権と対外交渉」の展示のため	30.9.25～12.19
8	太宰府市文化ふれあい館	16	大宰府史跡出土瓦等	「まるごと太宰府歴史展」の展示のため	30.7.26～11.7
9	吉野ヶ里歴史公園	8	祇園山古墳出土鏡等	『よみがえる邪馬台国』「倭人伝の道Ⅴ－邪馬台国と筑紫の王都 筑後－」の展示のため	30.9.6～11.15
10	春日市奴国の丘歴史資料館	3	須玖岡本遺跡採集鉄器等	「須玖遺跡群発掘調査成果展」の展示のため	30.9.11～10.31
11	九州国立博物館	10	御笠団印（模造）等	「大宰府発掘調査50周年記念 大宰府研究の歩み」の展示のため	30.9.4～31.1.30
12	飯塚市歴史資料館	10	花瀬村庄屋文書等（文書以外）	「嘉麻・穂波の幕末維新展」の展示のため	30.10.18～12.20
13	岩戸山歴史文化交流館	1	岩戸山古墳出土石水鳥	「石と埴輪の動物たち」の展示のため	30.10.17～12.21
14	船迫窯跡公園体験学習館	39	安武・深田遺跡出土鉄器等	「鉄の歴史展」の展示のため	30.10.10～12.21

15	香春町教育委員会 香春の道展実行委員会	30	浦松遺跡出土須恵器等	「香春の道展」の展示のため	30.10.21～12.6
16	大野城心のふるさと館	36	大野城跡出土刻書柱痕等	「再々発見！古代山城と水城・大野城」の展示のため	30.11.1～31.1.23
17	古代歴史文化協議会九州国立博物館	6	古野 A1 号墳出土丸玉等	「玉ー古代を彩る至宝ー」の展示のため	30.10.9～31.3.8
18	大宰府展示館	22	大宰府政庁跡出土瓦等	「大宰府史跡発掘50年記念展 大宰府史跡ものがたり」の展示のため	30.11.7～31.1.9
19	文化庁	21	大宰府出土木簡	指定調査のため	31.1.18～5.17
20	大宰府展示館	11	大宰府政庁跡出土瓦等	常設展示のため	
21	太宰府市文化ふれあい館	13	大宰府政庁跡出土瓦等	「碑帖辿歴ー拓本で紡ぐ史跡のかたち」	31.3.26～
22	国立科学博物館	19	西新町遺跡出土ガラス小玉等	「ビーズー自然をつなぐ、世界をつなぐー」	31.4.2～
23	那珂川市教育委員会	一式	国境石垣写真	五ヶ山ダムの便益施設等に設置する遺跡の解説看板に使用するため	30.1.16～30.3.31
24	須恵町教育委員会	一式	一の浦遺跡および篠堀遺跡出土遺物、写真および図面	資料調査のため	30.3.1～30.3.31

考古資料の貸出一覧（長期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4	甕棺	展示等利活用のため	28.7.1～1.6.30
2	京都国立博物館	1	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用のため	29.1.1～2.12.31
3	韓国国立羅州文化財研究所	1	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	29.2.3～2.1.31
4	九州国立博物館	249 件	門田遺跡出土細石刃等	文化交流展示室展示等のため	30.4.1～31.3.31
5	国立歴史民俗博物館	9	広田遺跡出土浅鉢・深鉢	総合展示のため	30.4.1～31.3.31
6	岩手県立博物館	4	永岡遺跡・牟田々遺跡出土土器、永岡遺跡甕棺	展示及び調査研究のため	30.4.1～31.3.31
7	粕屋総合庁舎	20	箱崎遺跡出土資料	展示ケース展示のため	30.4.1～31.3.31
8	甘木歴史資料館	43 件	高原遺跡・立野遺跡・天園遺跡・冶部ノ上遺跡・楠田遺跡・上の原遺跡・才田遺跡・菩提寺古墳群・仙道古墳・真奈板遺跡・観音塚古墳・湯の隈古墳出土資料	常設展示のため	30.4.1～31.3.31

9	求菩提資料館	10	銅製経筒・草花双鳥文鏡・蓬萊文鏡	常設展示のため	30.4.1～31.3.31
10	福岡市博物館	2	西新町遺跡出土土器	常設展示のため	30.4.1～31.3.31
11	老司公民館	6	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示のため	30.4.1～31.3.31
12	古都大宰府保存協会	29	大宰府史跡出土資料	大宰府展示館常設展示のため	30.4.1～31.3.31
13	大野城市牛頸ダム記念館	104 8	牛頸須恵器窯跡出土資料 牛頸須恵器窯跡写真パネル	牛頸ダム記念館における展示のため	30.4.1～31.3.31
14	筑紫野市歴史博物館	108	剣塚遺跡・剣塚3号墳・道場山遺跡・萩原遺跡・八隈遺跡・峠山遺跡出土資料	常設展示のため	30.4.1～31.3.31
15	直方市教育委員会	72	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方市美術館別館展示のため	30.4.1～31.3.31
16	古賀市教育委員会	19	水上遺跡・太田町遺跡・川原庵山8号墳・久保長崎遺跡出土資料	古賀市歴史資料館展示のため	30.4.1～31.3.31
17	春日市教育委員会	6	伯玄社遺跡・柏田遺跡・御供田遺跡出土品・伝昇町出土鏡片	常設展示のため	30.4.1～31.3.31
18	伊都国歴史博物館	246	三雲南小路遺跡出土資料等	展示等利活用のため	30.4.1～31.3.31
19	八女市教育委員会	1	真浄寺古墳出土短甲2号	岩戸山歴史資料館常設展示のため	30.4.1～31.3.31
20	小郡市埋蔵文化財調査センター	262箱 一式	津古内畑遺跡第3,4,5次調査出土資料 津古内畑遺跡第3,4,5次調査図面及び写真	報告書作成のため	30.4.1～31.3.31
21	筑前町教育委員会	177箱	依井遺跡・堂の浦遺跡・君ヶ原遺跡・大刀洗病院遺跡・高上遺跡・仙道古墳群・仙道古墳出土資料	筑前町歴史民俗資料館等で利活用のため	30.4.1～31.3.31
22	筑前町教育委員会	76箱	駕与丁池遺跡・辻畑遺跡・西尾山古墳群・脇田山古墳・井山古墳群出土資料	展示等利活用のため	30.4.1～31.3.31
23	香春町教育委員会	84	陣山屋敷遺跡・湯無田遺跡・古坊遺跡出土資料	町民センター歴史資料室展示のため	30.4.1～31.3.31
24	みやこ町教育委員会	23	徳永川ノ上遺跡・鋤先遺跡・居屋敷遺跡出土資料	みやこ町歴史民俗博物館常設展示のため	30.4.1～31.3.31

25	鞍手町教育委員会	10 件	銀冠塚古墳・神崎遺跡・古門窯跡・新北向山遺跡・新北高木遺跡・音丸城跡・段ノ上遺跡・中屋敷遺跡・八尋旭古墳・新延貝塚出土資料	鞍手町歴史民俗資料館等で利活用のため	30.4.1～31.3.31
26	篠栗町教育委員会	117	高田遺跡・トヲノ尾遺跡・塚元遺跡出土資料	篠栗町歴史民俗資料室展示のため	30.4.1～31.3.31
27	須恵町教育委員会	419	乙植木古墳群出土資料	須恵町歴史民俗資料館展示のため	30.4.1～31.3.31
28	福津市教育委員会	78	津屋崎古墳群出土資料等	福津市歴史資料館展示のため	30.4.1～31.3.31
29	筑波大学	一括	立明寺古墳群出土資料	大学における教育等に活用するため	30.4.1～31.3.31
30	太宰府館	9	大宰府史跡出土瓦	太宰府館における展示のため	30.4.1～31.3.31
31	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2	永岡遺跡出土甕棺上下甕	常設展示のため	29.9.1～30.8.31
32	栃木県立博物館	2	門田遺跡、甕棺上下甕	常設展示のため	29.10.1～30.9.31

考古資料の一時利用（資料見学）

番号	利用者（機関）	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	みやこ町郷土史研究会	一式	鋤先遺跡出土一字一石経石	調査研究のため	30.4.11
2	個人	12	堂畑遺跡出土小形仿製鏡等	調査研究のため	30.4.21
3	個人	10	湯納遺跡出土土器	調査研究のため	30.4.24
4	個人	一式	山田1号墳出土ガラス小玉	調査研究のため	30.5.17
5	みやこ町郷土史研究会	一式	鋤先遺跡出土一字一石経石	調査研究のため	30.5.25
6	個人	4	勝浦峯ノ畑古墳出土青銅製品	調査研究のため	30.5.29
7	一般財団法人 Jミルク	7	吉塚本町出土牛乳瓶	冊子およびホームページ掲載のため	30.6.2
8	大阪府立近つ飛鳥博物館	1	若八幡宮古墳出土三角縁二神二獣鏡	展示のための資料調査	30.6.11
9	個人	一式	大宰府史跡出土土師器	論文作成のため	30.6.14
10	個人	一式	勝浦峯ノ畑古墳出土ガラス小玉	調査研究のため	30.6.18
11	個人	一式	大宰府史跡出土瓦等	調査研究のため	30.7.12
12	個人	1	津古内畑遺跡出土石製品	調査研究のため	30.7.12
13	吉野ヶ里歴史公園	5	祇園山古墳出土土器等	展示のための資料調査	30.6.27
14	春日市奴国の丘歴史資料館	一式	須玖岡本遺跡採集鉄器等	展示のための資料調査	30.8.2
15	田川市石炭・歴史資料館	一式	嘉穂高等学校所蔵資料	展示のための資料調査	30.8.9
16	国立科学博物館	一式	西新町遺跡出土ガラス小玉鋳型等	展示のための資料調査	30.8.17

17	個人	2	大宰府史跡出土ガラス製品等	調査研究のため	30.8.17
18	韓国国立伽耶文化財研究所	一式	京ヶ辻遺跡出土資料等	資料集成的ため	30.8.24
19	個人	一式	柿原遺跡出土土器等	調査研究のため	30.9.9
20	個人	1	立野遺跡出土青銅鏡	調査研究のため	30.9.12
21	嘉麻市教育委員会	6	西ノ原遺跡出土土器等	調査研究のため	30.9.20
22	個人	一式	吉塚本町出土ガラス瓶	調査研究のため	30.9.28
23	個人	6	大宰府史跡出土陶磁器	論文作成のため	30.9.26
24	個人	1	西新町遺跡出土石製品	調査研究のため	30.9.29
25	個人	5	西新町遺跡出土石製品	調査研究のため	30.10.4
26	個人	5	西新町遺跡出土石製品	調査研究のため	30.10.4
27	個人	一式	勝浦峯ノ畑古墳出土玉類	論文作成のため	30.10.4
28	大野城心のふるさと館	32	大宰府史跡出土資料等	展示のための資料調査	30.10.11
29	個人	5	西新町遺跡出土石製品	調査研究のため	30.10.19
30	個人	6	西新町遺跡出土石製品等	調査研究のため	30.10.19
31	個人	5	西新町遺跡出土石製品	調査研究のため	30.10.26
32	個人	6	西新町遺跡出土石製品等	調査研究のため	30.11.3
33	個人	一式	汐井掛遺跡出土鉄器等	論文作成のため	30.11.1 ～11.2
34	個人	5	三雲遺跡出土石製品等	調査研究のため	30.11.15
35	個人	9	西新町遺跡出土石製品等	調査研究のため	30.11.16
36	個人	3	下伊良原下地ヶ原遺跡出土資料	調査研究のため	30.11.21
37	個人	9	西新町遺跡出土石製品等	調査研究のため	30.11.23
38	個人	1	仮塚南遺跡出土鋳型	調査研究のため	30.11.12
39	個人	3	汐井掛遺跡出土鉄器	論文作成のため	30.12.1
40	個人	一式	鐘崎貝塚出土資料	調査研究のため	31.2.6
41	国立科学博物館	1	西新町遺跡出土ガラス小玉鋳型等	展示のための資料調査	30.2.7
42	九州国立博物館	2	門田遺跡出土鉄戈等	展示のための資料調査	30.2.12
43	個人	一式	延永ヤヨミ園遺跡出土木製品	調査研究のため	31.2.20
44	個人	一式	流松溝田遺跡出土土器等	論文作成のため	31.2.22
45	個人	一式	汐井掛遺跡出土資料等	調査研究のため	31.2.22
46	個人	一式	汐井掛遺跡出土資料等	調査研究のため	31.2.28 ～3.1
47	個人	一式	柿原古墳群出土鉄器	論文作成のため	31.2.22
48	個人	1	若八幡宮古墳出土三角縁二神二獣鏡	論文作成のため	31.2.26
49	個人	20	西新町遺跡出土石製品等	調査研究のため	31.3.22

文書・典籍資料の貸出一覧（長期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	筑豊高等学校	223	筑豊工業高校資料	資料室における展示	31.4.1～2.3.31
2	福岡県青少年科学館	90	筑豊工業高校資料	常設展示	31.4.1～2.3.31
3	九州国立博物館	1	筑豊工業高校資料	常設展示	31.4.1～2.3.31

文書・典籍資料の貸出一覧（短期）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	福岡県立公文書館	17	福岡県所蔵資料目録	複写のため	30.10.11～ 30.10.25
2	飯塚市歴史資料館	10	花瀬村庄屋文書・地 図絵図史料	明治150年記念展「嘉麻・穂 波の幕末維新展」における展 示	30.10.18～ 30.12.19
3	福岡県教育庁筑豊教育 事務所	7	筑豊工業高校資料	展示のため	30.11.8～ 31.3.31
4	福岡県立公文書館	123	絵葉書・地図絵図史 料・太田静六関係資 料	企画展「近代福岡の公共建築 物—移り変わるまちの記憶 —」における展示	30.12.25～ 31.3.27

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）

番号	利用者（機関）	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	新修宗像市史編さん 委員会	780	福岡日日新聞・福陵新報・西日 本新聞・九州日報（紙焼）	市史編纂	30.4.4～31.3.22
2	飯塚市歴史資料館	88	花瀬村庄屋文書・福岡藩関係資料・ 地図絵図史料・福岡日日新聞	展示準備	30.4.20～30.6.1
3	個人	5	中屋文書・粕屋郡・宗像郡戸長 役場関係資料	調査研究	30.4.22
4	個人	79	永江文書・福岡県勸業年報	調査研究	30.4.27～30.9.28
5	個人	14	鎌水文書	調査研究	30.5.11
6	個人	3	園田文書	調査研究	30.5.12
7	個人	3	早良郡絵図・長崎道中記絵図・ 筑前名所草香江図	調査研究	30.5.19～31.2.6
8	福岡市博物館市史編 さん室	39	戸川（博）文書	市史編纂	30.5.27
9	個人	29	永江文書・野田文書	調査研究	30.6.3～30.7.1
10	九州産業大学	52	中尾家文書	調査研究	30.6.16
11	大阪大学社会経済研 究所	143	永江文書	調査研究	30.7.14～30.7.15
12	（有）建築史塾 Ar- chist	10	林（美）文書	調査研究	30.7.19
13	個人	6	地図絵図史料・福岡県史資料第3 集付図 久留米藩領古図・角川地 名大辞典・明治十五年字小名調	調査研究	30.7.19
14	個人	5	筑豊工業高校資料	調査研究	30.7.26
15	河上建築事務所	2	林（美）文書	調査研究	30.7.26
16	個人	16	地図絵図史料	調査研究	30.8.2
17	中城村教育委員会生 涯学習課文化係	20	伊東尾四郎文書	調査研究	30.8.5
18	大阪経済大学	7	永江文書・野田大塊文書	調査研究	30.8.14

19	筑紫女学園大学	140	福岡日日新聞・地域史収集資料 金鉦試掘地図	調査研究	30.8.19～31.1.26
20	港区史近世部会	96	林(美)文書・福岡藩関係史料・ 九州文化史研究所所蔵古文書目 録(九)・福岡市の絵馬目録・図 録1.2(図書)	区史編纂	30.8.23
21	筑紫女学園大学	6	地域史収集史料・糟屋郡宗像郡 戸長役場関係資料・福岡藩関係 史料	市史編纂	31.2.3
22	九州産業大学	87	松岡(聡)文書(製本史料)・福 岡日日新聞・熊谷文書・永江文書・ 山門郡誌・野田大塊文書	調査研究	30.8.24～31.3.8
23	個人	2	後藤(健)所蔵史料	調査研究	30.9.1
24	東京大学地震研究所	1	粕屋郡史編さん関係資料	調査研究	30.9.26
25	青山学院大学	6	野田大塊文書	調査研究	30.10.19
26	個人	6	福岡藩関係史料(紙焼)・福岡藩 吉田家傳録(図書)	調査研究	30.10.25
27	個人	11	花瀬村庄屋文書	調査研究	30.11.1
28	個人	3	林(美)文書・中尾文書	調査研究	30.11.7
29	筑紫野市歴史博物館	3	林(美)文書	調査研究	30.11.20
30	筑前、黒田家古文書 を読む会	2	斉清公御入寺御行列附・乾龍院 様為経龍光院下向之次第并御仕 向御次第書写	調査研究	30.12.13
31	筑紫女学園大学	78	福岡日日新聞	調査研究	30.12.15～31.3.28
32	個人	8	林(美)文書(紙焼・データ閲覧)	調査研究	30.12.26
33	筑波大学	17	絵葉書	調査研究	31.1.14
34	個人	12	藤井文書・矢野文書・鎌水文書・ 石野文書	調査研究	31.1.20
35	個人	2	藤井(甚)文書	調査研究	31.1.22
36	琉球大学教育学部	19	永江文書・福陵新報・九州日報・ 福岡日日新聞	調査研究	31.2.5～31.3.22
37	高崎経済大学	13	永江文書・福岡日日新聞	調査研究	31.2.15
38	千葉大学大学院社会 科学院(法政経学部)	26	篠田文書	調査研究	31.3.6
39	個人	1	地図絵図史料	調査研究	31.3.12
40	個人	14	友枝村役場文書	調査研究	31.3.17

写真資料等の貸出・掲載許可一覧

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的	仕様
1	太宰府市	1	浦ノ田遺跡P群全景(南 から)	「広報だざいふ」掲載	デジタルデータ
2	(株)アルカ	1	「東九州自動車道関係埋 蔵文化財調査報告17」 図版15	「アルカ通信」176号掲 載	デジタルデータ

3	教育出版	5	大宰府政庁模型 他	平成 32 年度版 小学校社会科用教科書「小学社会 4 年」掲載等	許可のみ
4	(株) アクルス	2	筑豊石炭鉱業組合直方会議所前 関係者群像 他	直方市ふるさと納税返礼品へ使用	許可のみ
5	個人	1	「福岡南バイパス関係埋蔵文化財調査報告第 8 集」第 120 図	法政大学出版局「鑄物」掲載	許可のみ
6	(株) かみゆ	1	水城跡航空写真	西東社「マンガで一気に読める！日本史」電子版掲載	許可のみ
7	太宰府市教育委員会	1	町並図	「太宰府の絵師 齋藤秋圃」展解説冊子への掲載等	デジタルデータ
8	荒神谷博物館	6	「西新町遺跡Ⅸ 県報 221 集」巻頭図版 3 他	平成 30 年度特別展の展示図録掲載等	デジタルデータ
9	福岡市博物館	4	浮嶽神社如来形立像並び側面 他	「福岡市史ふくおか」第 13 号掲載	デジタルデータ
10	高松市教育委員会	1	特別史跡大野城跡	屋嶋城跡パンフレット(増刷)に掲載	許可のみ
11	(株) 国書刊行会	49	生立八幡宮 僧形八幡神坐像 他	「神像彫刻重要資料集成 第 4 巻 西日本編」掲載	デジタルデータ
12	アジア文化交流センター	1	大宰府政庁模型	文化交流展示看板掲載	許可のみ
13	国立歴史民俗博物館	5	(筑前国) 糟屋郡紫草廿根 他	総合展示グラフィックパネル等掲載	デジタルデータ
14	MIHO MUSEUM	2	王塚古墳石室画像 他	「赤と青のひみつ 聖なる色のミステリー」展印刷物等掲載	デジタルデータ
15	九州テレ・コミュニケーションズ(株)	1	大野城跡太宰府口城門復元イメージ図	情報番組「2755」にて放映	デジタルデータ
		1	城門変遷図		
16	(株) 梓書院	4	三雲遺跡南小路地区出土ガラス璧 他	「魏志倭人伝の真実 纏向に卑弥呼はいなかった」掲載	デジタルデータ
17	(株) スリーシーズン	1	大野城跡百間石垣	「石垣の名城 完全ガイド」掲載	デジタルデータ
18	荒神谷博物館	1	「西新町遺跡Ⅶ 県報 208 集」図版 53-5	平成 30 年度特別展の展示図録掲載等	デジタルデータ
19	青葉図書(株)	1	大宰府政庁復元模型	「社会科資料集 6 年」掲載	デジタルデータ
20	古代歴史文化協議会	2	天園 2 号墳出土 重層ガラス玉 他	「玉 - 古代を彩る至宝 -」掲載	デジタルデータ

21	(一財) 西日本文化協会	2	豊前国府と貫山系	「西日本文化」秋季号(第488号)掲載	デジタルデータ
22	直方市	7	旧福岡県立筑豊工業高校所蔵写真	「市報のおがた」掲載	デジタルデータ
23	テレコムスタッフ(株)	1	三雲遺跡南小路地区2号甕館	BS-TBS「諸説あり!」放映	許可のみ
24	歴史国土	2	行橋町市街及郊外地図他	古地図提供アプリ使用	デジタルデータ
25	太宰府市	1	阿部説による羅城復元図	「広報だざいふ」掲載	許可のみ
26	(株) フラワーカンパニー	2	王塚古墳石室 他	TOKYO MX「ソーシャルジン」放映	デジタルデータ
27	(一財) 西日本文化協会	2	「東九州自動車道関係埋蔵文化財調査報告19」巻頭図版1 他	「西日本文化」秋季号(第488号)掲載	デジタルデータ
28	福岡市博物館	5	誓願寺蔵 十王図 他	特別展「浄土九州-九州の浄土教美術-」図録掲載	デジタルデータ
29	国立歴史民俗博物館	1	塚堂遺跡D地区北西部と塚堂古墳	総合展示グラフィックパネル等掲載	デジタルデータ
30	甘木歴史資料館	2	熊谷文書 2点	ロビー企画展に展示	デジタルデータ
31	熊本県立装飾古墳館	5	大野城跡(四王寺山)と大宰府政庁跡 他	パネル展「古代山城の城門」に展示	デジタルデータ
32	個人	1	門田遺跡出土爪形文土器	書籍に掲載	デジタルデータ
33	(株) 帝国書院	1	水城跡	2021年度発行中学校歴史教科書他に掲載	許可のみ
34	(公財) 古都大宰府保存協会	6	大宰府政庁中門跡・南門跡出土地鎮具	第7回「大宰府検定」出題	デジタルデータ
35	個人	2	大宰府政庁復元模型 他	研修資料に掲載	デジタルデータ
36	春日市教育委員会	1	伯玄社遺跡出土有茎磨製石鏃	平成30年度筑紫地区文化財写真展掲載	許可のみ
37	(株) 平凡社	1	大宰府政庁正殿跡発掘調査状況	別冊太陽「風土記の世界」掲載	デジタルデータ
38	(株) 光文書院	1	春日市辻田遺跡出土鉄斧	「社会科資料集6年」掲載	許可のみ
39	「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議	3	三井田川鉱業所伊田坑	「明治日本の産業革命遺産」企画展パネル掲載他	許可のみ
40	国立歴史民俗博物館	1	今川遺跡出土青銅器破片	総合展示グラフィックパネル等掲載	デジタルデータ
41	日田市立博物館	1	善正上人・藤原恒雄像	企画展「鳥と人とのかわり」パネル掲載	デジタルデータ

42	(株) シーピーツ アーズ	3	発掘速報展 2018 展示風景 他	ツアーパンフレット・HP 掲載	デジタルデータ
43	古代歴史文化協議会	1	古野 A 1 号墳出土丸玉	巡回展「玉 - 古代を彩る 至宝 -」 広報物掲載等	デジタルデータ
44	個人	1	仁右衛門遺跡出土弥生 土器	書籍に掲載	デジタルデータ
45	アジア文化交流セン ター	16	昭和時代の太宰府政庁 跡 他	特集展示「太宰府研究の 歩み」に使用	デジタルデータ
46	尼崎市教育委員会	2	香椎松原遺跡出土銅釧 鎔范	特別展「腕輪モノがたり」 に使用	デジタルデータ
47	飯塚市歴史資料館	1	目尾炭坑 (明治 34 年頃)	明治 150 年記念「嘉麻・ 穂波の幕末維新展」に使用	デジタルデータ
48	苅田町教育委員会	1	英彦山大権現松会之図	「等覚寺の松会」映像記 録資料に使用	デジタルデータ
49	田川市立図書館	1	筑豊石炭鉱業組合直方 会議所	「筑豊・田川デジタルアー カイブ」に使用	デジタルデータ
50	(公財) 古都太宰府 保存協会	2	太宰府史跡の調査開始 他	ウォークイベント配布小 冊子に掲載	デジタルデータ
51	(公財) 古都太宰府 保存協会	24	太宰府史跡関係写真	機関紙「都府楼」50 号 掲載	デジタルデータ
52	太宰府市	2	太宰府図屏風 部分 (都 府楼跡周辺)	文化財説明板に掲載	デジタルデータ
53	大野城心のふるさと 館	3	基肄城出土軒丸瓦・軒 平瓦 他	第 2 回特別企画展展示図 録掲載	デジタルデータ
54	(株) 碧水社	3	水城「木樋」 他	「続日本 100 名城に行こ う」掲載	デジタルデータ
55	(株) 地域情報セン ター	4	匍匐練習 練習坑道内 他	月刊誌「ふくおか経済 12 月号」掲載	デジタルデータ
56	日田市立博物館	1	善正上人・藤原恒雄像	企画展「鳥と人とのかか わり」パネル掲載	デジタルデータ
57	個人	1	太宰府政庁跡出土鬼瓦	研修資料に掲載	デジタルデータ
58	鳥取市因幡万葉歴史 館	2	太宰府政庁跡 他	展覧会「古代の道と万葉 歌 - 家持の歌にふれる -」 に使用	デジタルデータ
59	(一財) 西日本文化 協会	3	絵葉書「福岡県立図書 館」 他	「西日本文化」新年号 (第 489 号) 掲載	デジタルデータ
60	九州芸文館美術展実 行委員会	2	日本書紀 他	九州芸文館開館 5 周年記 念特別展に使用	デジタルデータ
61	太宰府市	1	観世音寺の梵鐘 (西面)	「広報だざいふ」掲載	デジタルデータ
62	忠清南道歴史文化研 究院	1	西新町遺跡出土土器集 合写真	「海外百済文化財資料集 日本の中の百済 九州 地域編」掲載	デジタルデータ
63	西日本新聞社	1	王塚古墳石室	「西日本新聞」掲載	デジタルデータ
64	小郡市教育委員会	1	三沢遺跡全景	JA みい情報誌「あぐり ピープル 1 月号」掲載	デジタルデータ

65	福岡県立公文書館	4	福岡県帝国府県地図	平成30年度第2回企画展に使用	デジタルデータ
66	(株) トップシーン	1	怡土城跡	NHK BSプレミアム「英雄たちの選択 右大臣・吉備真備」放映	デジタルデータ
67	(株) 吉川弘文館	1	西新町遺跡出土土器集合写真	「ここが変わる! 日本の考古学-先史・古代史研究の最前線-」掲載	許可のみ
68	(株) KADOKAWA 文芸部	2	三雲八龍遺跡出土土器他	田中史生「渡来人と帰化人」掲載	許可のみ
69	個人	1	広田遺跡出土管玉	学術論文掲載	許可のみ
70	始良市	1	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土木簡	「始良市誌通史編第1巻(原始・古代・自然)」掲載	許可のみ
71	九州テレ・コミュニケーションズ(株)	2	木樋全景(5次調査)他	情報番組「2755」にて放映	デジタルデータ
72	(公財)直方文化青少年協会	1	筑豊石炭鉱業組合直方会議所	絵葉書に使用	デジタルデータ
73	(株) ユニフォトプレスインターナショナル	1	大宰府政庁復元模型	2020年版「歴史資料集」掲載	デジタルデータ
74	日本旧石器学会広報委員会	1	宗原遺跡出土石器	日本旧石器学会2018年度普及講演会に使用	許可のみ
75	産経新聞九州総局	2	藤井功氏の写真 他	産経新聞九州山口版連載記事に掲載	デジタルデータ
76	伊都国歴史博物館	3	怡土城空撮	冬季企画展「怡土城-築城1250年・国史跡指定80周年-」に使用	デジタルデータ
77	(株) ネクサス	2	三雲南小路遺跡出土ガラス璧 他	「にっぽん!歴史鑑定」にて放映	デジタルデータ
78	(有) 海鳥社	50	四王寺山出土・銅製経筒 他	「九州仏像史入門」掲載	デジタルデータ
79	(株) グレイル	1	三雲南小路地区出土ガラス製垂飾、硬玉製勾玉	「最新発掘調査でわかった『日本の神話』」掲載	デジタルデータ
80	沖縄県教育委員会	2	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土木簡	「沖縄県史 図説編2 前近代」掲載	デジタルデータ
81	(株) アフロ	1	大宰府政庁復元模型	「新しい社会 地図」掲載	デジタルデータ
82	福岡市柏原公民館	1	柏原合薬再製所凡図	歴史看板に掲載	デジタルデータ
83	福岡県広域地域振興課長	1	絵はがき「(門司名所)交通繁華なる…棧橋通り」	関門海峡ミュージアム展示パネル掲載	デジタルデータ
84	(株) 乃村工藝社九州支店	2	矢加部南屋敷遺跡出土輸入陶磁器 他	関門海峡ミュージアム展示パネル掲載	デジタルデータ

85	戎光祥出版（株）	1	水城跡と大野城	松岡利郎「城郭建築の研究」掲載	デジタルデータ
86	（公財）古都大宰府保存協会	3	大宰府史跡第31・35・72次調査区遺構配置図他	大宰府展示館常設展示解説キャプション掲載	許可のみ
87	（株）吉川弘文館	1	大宰府政庁復元模型	「わくわく！体験 れきはく日本の歴史1 先史・古代」掲載	デジタルデータ
88	西日本新聞社宇佐中津支局	1	豊前国下毛郡津民荘香春口扇ヶ城之墟図	西日本新聞大分県版連載記事掲載	デジタルデータ
89	（株）筑摩書房	2	大宰府政庁跡空中写真他	佐藤信「古代史講義【戦乱篇】」掲載	デジタルデータ
90	日本文教出版（株）	1	大宰府政庁復元模型	「中学社会歴史分野」掲載	デジタルデータ
91	（株）アフロ	1	王塚古墳前室奥壁	「新しい社会 歴史」掲載	デジタルデータ
92	（株）西日本新聞メディアラボ	2	大宰府政庁復元模型	TVQ「ぶらりベスト街」放映	デジタルデータ
93	川崎町教育委員会	4	城山城址	発掘調査報告書「城山城址」掲載	デジタルデータ
94	（一財）西日本文化協会	2	大丸館主・山田大太郎が永江純一に宛てた絵ハガキ	「西日本文化」春季号（第490号）掲載	デジタルデータ
95	九州テレ・コミュニケーションズ（株）	1	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区調査遠景（84次）	情報番組「2755」にて放映	デジタルデータ
96	（株）KADOKAWA	1	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土木簡	村井章介「古琉球 海洋アジアの輝ける王国」掲載	デジタルデータ
97	みやま市教育委員会	1	「髻の綸旨」五条家文書	「みやま市史通史編（上）」掲載	デジタルデータ
98	（株）筑摩書房	1	水城と大野城	佐藤信「古代史講義【戦乱篇】」掲載	デジタルデータ
99	（株）TVQ九州放送	2	王塚古墳石室 玄室前壁 他	「ちょっと福岡行ってきました！」放映	デジタルデータ
100	個人	2	西新町遺跡出土土器集合写真 他	「海の向こうからみた倭国」掲載	デジタルデータ
101	（株）同成社	4	汐井掛遺跡破鏡 他	南健太郎「東アジアの銅鏡と弥生社会」掲載	許可のみ
102	九州テレ・コミュニケーションズ（株）	1	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区出土「大城」銘墨書土器	情報番組「2755」にて放映	許可のみ
103	（株）新泉社	1	三雲遺跡南小路地区2号甕館墓出土連弧文「日光」銘鏡	藤田三郎「唐古・鍵遺跡」掲載	デジタルデータ

104	(株) 光文館	2	大宰府政庁跡 他	「よいこの社会化」 1 月号掲載	デジタルデータ
105	長井市教育委員会	1	門田遺跡出土土器	「長井市史（平成版）第 1 巻『原始・古代・中世』編」掲載	デジタルデータ
106	読売新聞東京本社	3	大宰府出土木簡	「平成 31 年 新指定国宝・重要文化財」展に使用	デジタルデータ
107	九州産業大学	2	裏粕屋郡唐原村宗旨御改帳 部分 他	「九州地域学」掲載	許可のみ
108	太宰府市教育委員会	3	水城東門跡木樋取水口 他	水城木樋跡説明板に使用	デジタルデータ
109	(公財) 古都大宰府保存協会	13	大宰府史跡関係写真	大宰府史跡発掘 50 周年記念映像に使用	デジタルデータ
110	みやま市教育委員会	20	二列に並ぶ甕館墓群	「みやま市史通史編（上）」掲載	許可のみ
111	文化庁	一式	皆見大塚古墳	「発掘された日本列島 2018」展使用	デジタルデータ
112	大野城心のふるさと館	2	仙道古墳出土盾持埴輪 他	開館記念特別展に使用	デジタルデータ
113	甘木歴史資料館	一式	須玖岡本遺跡出土鉄剣 他	平成 30 年度夏季企画展に使用	デジタルデータ
114	近つ飛鳥博物館	7	若八幡宮古墳墳丘 他	平成 30 年度秋季特別展に使用	デジタルデータ
115	太宰府市文化ふれあい館	4	大宰府政庁跡発掘調査風景 他	「まるごと太宰府歴史展 2018」に使用	デジタルデータ
116	吉野ヶ里公園管理センター	13	祇園山古墳全景 他	特別企画展に使用	デジタルデータ
117	飯塚市歴史資料館	10	心得之ヶ条 花瀬村庄屋文書 25 他	明治 150 年記念「嘉麻・穂波の幕末維新展」に使用	デジタルデータ
119	築上町教育委員会	17	安武・深田遺跡谷地区区割りの状況 他	企画展「鉄の歴史展」にて使用	許可のみ
120	大野城心のふるさと館	9	軸摺金具 他	特別企画展「再々発見！古代山城と水城・大野城」展に使用	デジタルデータ
121	国立科学博物館	3	西新町遺跡出土ガラス小玉 他	共同企画展「ビーズ - 自然をつなぐ、世界をつなぐ -」に使用	デジタルデータ

(4) 学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

30年度も、小学6年生、中学1年生が学習する時期に合わせて4～7月に開催する企画展「きゅうおにとタイムトラベル」を開催した。ここでは、福岡県内の遺跡から出土した資料を教材として、学習指導要領のねらいに迫ることができるよう、来館学習を行った。縄文時代と弥生時代の道具を比較し、それぞれの特色が読み取れるよう子どもたちに問いを投げかけ、視点を示してから見学をさせた。長い期間、豊かな自然の中で狩猟や採集の生活が営まれていたことや農耕が始まったころの人々の生活や社会の様子が分かるように、道具を通してそれらを使っていた人々の暮らしに目を向けさせた。来館学習用のワークシートを作成して配布し、気づいたことや考えを記入できるようにした。



小学校の来館学習の様子

第1展示室では、自由見学を中心とし、子ども達が個々に「お気に入り」の資料を自由に見て回る活動を行った。子ども達は、関心をもったものについて質問し、多くの展示資料の中からそれぞれに「お気に入り」を見つけ、それがどんな物なのかメモを取っていた。

第4展示室では、遺構展示してある物が使われていた当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。さらに、中庭では、取り上げた遺物を科学を駆使して分析し、丁寧に修復・整理し、記録する作業についての説明に、興味深そうに見聞きする姿が見られた。

学校団体関係者の来館者総数は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人 数
4月12日(木)	朝倉市立甘木小学校(6年生)	106名
5月1日(火)	小郡市立小郡小学校(6年生)	129名
5月15日(火)	朝倉市立立石小学校(6年生)	112名
5月18日(金)	小郡市立大原小学校(6年生)	65名
6月13日(水)	小郡市立のぞみが丘小学校(6年生)	145名
6月15日(木)	筑後市立羽犬塚小学校(6年生)	107名
6月22日(水)	久留米市立青峰小学校(6年生)	21名
10月31日(水)	芦屋町立芦屋小学校(6年生)	38名
11月13日(火)	須磨学園中学校(1年生)	125名
12月19日(水)	早稲田実業学校(高等部2年生)	4名
	来館学習総数	852名

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び当館が合同で実施しているものである。四者で児童・生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。当館は27



スクールミュージアムの様子

年度から参画し、本年度は小学校2校、高等学校1校が来館した。

事前に学校との打ち合わせを行い、学習進度、児童・生徒の興味・関心、先生方のねらいを十分に聞いてプログラムを作成したことで、各学校のニーズに答えることができた。

例えば、久留米市立西牟田小学校は、学校側から、縄文時代と弥生時代の暮らしについて学ばせたいという要望があったために、第2展示室で縄文時代と弥生時代の出土資料の比較による当時の人々の暮らしについての学習を行っただけでなく、第1展示室でも専門の学芸員が縄文時代と弥生時代の出土資料の説明を行った。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人 数
4月25日(木)	久留米市立西牟田小学校(6年生)	50名
5月9日(水)	宗像市立南郷小学校(6年生)	44名
6月12日(火)	福岡県立明善高等学校(定時制)	111名
スクールミュージアム総数		225名

○中学校職場体験

30年度も、13校66名の中学生を受け入れ、職場体験を行った。館内の見学、土器の展開、拓本、図書整理作業など博物館ならではの仕事のほか、警備、受付、清掃など、いろいろな業務を体験することを通して、多くの人たちの様々な仕事によって館全体の事業が成り立っていることや共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の生き方・在り方を考えさせることを目指した。



中学校職場体験の様子

実施日と参加学校団体は以下のとおりである。

期 日	学校名	人 数
6月12日(火)～6月13日(水)	小郡市立三国中学校(2年生)	4名
6月26日(火)～6月27日(水)	太宰府市立大宰府東中学校(2年生)	6名
7月3日(火)～7月4日(水)	太宰府市立大宰府西中学校(2年生)	3名
7月11日(水)～7月12日(木)	太宰府市立学業院中学校(2年生)	6名
9月5日(水)～9月6日(木)	太宰府市立大和中学校(2年生)	6名
11月7日(水)～11月8日(木)	小郡市立大原中学校(2年生)	2名
11月28日(水)～11月29日(木)	筑紫野市立二日市中学校(2年生)	5名
12月4日(火)～12月5日(水)	筑紫野市立筑紫野中学校(2年生)	6名
1月22日(火)～1月23日(水)	大野城市立大野中学校(2年生)	6名
1月23日(水)～1月24日(木)	春日市立春日野中学校(2年生)	6名
2月19日(火)～2月20日(水)	筑紫野市立筑紫野南中学校(2年生)	6名
2月20日(水)～2月22日(金)	春日市立春日南中学校(2年生)	4名
2月21日(木)～2月22日(金)	筑紫野市立筑山中学校(2年生)	6名
職場体験総数		66名

○高校生インターンシップ

30年度は、高校教育課より委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を2回、また、県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施した。インターンシップでは、中学生職場体験よりも内容を充実させ、歴史系博物館ならではのプログラムを提供した。職業体験の機会を提供し、勤労観・職業観を養い、職業選択能力の伸長への支援を目指した。高校生にとっては、自己の生き方・在り方を考える時間となったと考える。

研修の内容、参加学校・人数は以下のとおりである。

	午 前	午 後
1 日目	開講式、館内見学、オリエンテーション、受付業務体験	野外展示物作成準備、保存科学実習
2 日目	遺物整理、野外展示物作成	遺物整理、図書整理、広報普及業務
3 日目	屋外展示物解説文案作成	

期 日	学 校 名	人数
7 月 25 日 (火) ～7 月 27 日 (木)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ (2 年生) 須恵 1 ・筑紫丘 1 ・武蔵台 2 ・大牟田北 1 ・輝翔館 1	6 名
7 月 31 日 (火) ～8 月 2 日 (木)	福岡県立三井高等学校 (2 年生)	6 名
8 月 7 日 (火) ～8 月 9 日 (木)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ (2 年生) 戸畑 3 ・光陵 1 ・福岡 1 ・八女 1	6 名
インターンシップ総数		18 名

○出前講座

30 年度は、太宰府市立学業院中学校と小郡市立大原中学校から 2 年生に対して、修学旅行の事前学習として出前講座の依頼があった。「仏像の見方」をテーマに、京都や奈良の寺院にある仏像の紹介などをしながら仏像についての興味・関心を高めることをねらいとして、教育普及担当と仏像を専門とする学芸員 2 名で出前講座を行った。

また、那珂川市立那珂川南中学校から 1 年生を対象としたキャリア教育の一環として、「発掘調査技師としての職業観」についての出前講座の依頼があり、保存科学を専門とする学芸員が出前講座を行った。



中学校出前講座の様子

○大宰府を知る in 九州歴史資料館～特別展「大宰府へ道－古代都市と交通－」から～

期日：30 年 6 月 15 日 (金)

内容：地域社会に対する誇りと愛情をもった児童・生徒の育成ためには、地域の教材をいかした社会科学学習が大切である。しかし、地域教材の開発に困難さを感じている先生方も少なくない。そこで、そんな悩みを解消するために、特別展会期中に筑紫地区の小・中学校の先生方を対象として企画したものである。当日は、筑紫地区の小・中学校の先生方 17 名に参加していただいた。

時間	内 容	場 所
13:00 ～ 13:15	受 付	文化情報広場
13:15 ～ 13:25	開会行事 (オリエンテーション)	研修室
13:25 ～ 14:15	講話～大宰府の歴史と文化財～	研修室
14:20 ～ 15:10	特別展観覧〔展示解説〕	第 1 展示室・第 2 展示室
15:10 ～ 15:25	休 憩	

15:25～16:15	地域（大宰府）の歴史資料の解説 歴史資料を使った教材の紹介	第1展示室
16:15～16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室

○教員のための博物館の日 in きゅうれき～特別展「大宰府への道－古代都市と交通－」から～

期日：30年6月2日（土）

内容：学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」である「ひと・もの・こと」を知ってもらい、博物館を楽しんでもらおうと企画したものである。参加者を募集したところ、希望者がほとんどいなかったため、今回は開催を見合わせた。

日程は、以下のとおりである。

時間	内容	場所
13:00～13:15	受付	文化情報広場
13:15～13:35	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:35～14:30	バックヤード	一般収蔵庫他
14:30～15:10	特別展観覧	第1展示室
15:10～15:20	休憩	
15:20～16:10	当館所蔵の文化財の紹介	研修室
16:10～16:20	感想交流	研修室
16:20～16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室

○福岡県内の主な文化財・年中行事資料集

令和2年度より完全実施となる小学校学習指導要領では、社会科の内容構成の改善として、第4学年で、自分たちの県を中心とした地域を学習対象として取り上げることとなった。県内の伝統や文化に関する内容については、内容の取扱いにおいて、「県内の主な文化財や年中行事がだまかに分かるようにする」ことが示された。

しかし、実際に授業を行うときに、「県内の主な文化財や年中行事」として何を取り扱えばよいのかや、教材開発に困難さを感じている先生方も少なくない。そこで文化財保護課や当館の機能をいかし、県内の主な文化財や年中行事についての資料集を作成することで、先生方が抱える負担感を軽減し、地域社会に対する誇りと愛情を深める児童・生徒を育成するという県の機関としての役割も果たせると考え、本事業を行った。作成に当たっては、文化財保護課や世界遺産室の職員にも執筆を依頼し、専門的な見地から福岡県内の文化財や年中行事について分かりやすく解説してもらい、文化財や年中行事から見えてくる福岡県の特徴について理解しやすい資料集となるようにした。

30年度末現在で、ホームページに掲載しているものは以下のとおりである。

1	稲童1号掩体壕	9	沖ノ島（宗像大社沖津宮）	17	小石原焼
2	英彦山	10	宗像大社中津宮と沖津宮遙拝所	18	大善寺玉垂宮の鬼夜
3	基肄城跡	11	新原・奴山古墳群と宗像大社辺津宮	19	豊前神楽
4	水城跡	12	遠賀川水源地ポンプ室	20	藤江氏魚楽園
5	大宰府跡（都府楼跡）	13	官営八幡製鉄所	21	本庄の大クス
6	大野城跡	14	三池港	22	立花氏庭園
7	筑豊炭田遺跡	15	三池炭鉱	23	観世音寺の巨像群
8	八女市八女福島	16	久留米餅		



ホームページバナー

(5) ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、27年度に第3期ボランティアを新たに募集し、28年4月から39名の体制で始動した。30年度は第3期の3年目である。土・日・祝日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助、ボランティア主催のイベントなど、多くの場面で活躍している。毎月第2土曜日に行われるボランティア研修では、古代体験を提供する際の工夫点など、活動をよりよくするための意見や要望が出され、組織全体として積極的に活動することができた。

◎研修会

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見・識見を高めること、ボランティア間の交流を図ることを目的として、毎月第2土曜日の午前中（10:00～）に定例研修会を開催している。前半は、先月までの活動報告と今後の予定やイベントでの役割の確認、当番の調整である。後半は、学びある実践研修として、当館学芸員による展示解説や古代体験新メニューにかかわる内容を計画、実施した。実践研修の内容は以下のとおりである。

回数	開催日	実践的研修の内容
第1回	4月14日	有料古代体験について（来館者への説明、作成手順の確認）
第2回	5月12日	特別展開設「大宰府への道ー古代都市と交通ー」解説
第3回	6月9日	パネル展示解説「船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2017-2018」
第4回	7月14日	古代体験新メニューについて（銅鏡の製作手順）
第5回	8月11日	古代体験について（出前古代体験における確認事項、有料体験の価格値上げ）
第6回	9月8日	ボランティアの今後の活動方針について
第7回	10月13日	古代体験新メニューについて（投壺のルール確認） 来年度ボランティアイベント案の協議
第8回	11月10日	古代体験新メニューについて（土器パズル）
第9回	12月9日	パネル展示解説「福岡鉄道遺産ものがたり6ー平成筑豊鉄道編ー」
第10回	1月12日	「障がいのあるこどもとの接し方」（小郡特別支援学校より講師招聘）
第11回	2月9日	ボランティア自主研修発表会①
第12回	3月9日	ボランティア自主研修発表会②

定例研修会において、ボランティアイベントの企画や古代体験の取り組み方針など、議題が重なることがあり、時間内で終わることが難しくなりつつあった。よって、ボランティアの中からリーダー、イベント担当を募り、定例研修会の前に議題の確認、調整する時間を確保することとした。

○バス研修会・交流会

30年度は、12月6日（木）に実施した。世界遺産に登録された大牟田を訪れ、明治日本の産業革命遺産を学ぶとともに現地ボランティアと交流した。

9:00に九州歴史資料館を出発し、大牟田に向かった。新大牟田駅に立ち寄り團琢磨像を車窓から見るなど、目的地に向かうまでは、事前研修を行った。午前中は、石炭産業科学館の見学（現地ボランティアによる施設・展示解説）、ボランティアとの座談会を行った。座談会は、具体的な活



石炭産業科学館でボランティアの解説をきくようす

動内容の紹介から、展示解説の際の心がけや工夫点などが話の中心となった。積極的な質問もあり、有意義な時間となった。

午後は、三池カルタ歴史資料館にて館長より解説を受け見学、その後、宮原坑跡と三池展望所においてボランティアによる解説を受け、近代化遺産についての理解を深めた。15:10に三池炭鉱展望所を出発し、17:00に九州歴史資料館に到着、解散となった。ボランティア19名、九州歴史資料館職員7名参加。

◎ボランティア活動

○古代体験・バックヤードツアー

土・日・祝日に実施している古代体験では、これまでのメニューに加え、鑄造体験「ミニ銅鏡」と、新たにボランティアが製作した投壺体験、50年事業で製作した古代の食器セットの土器パズルをメニューに加え、原材料の価格上昇に合わせて有料体験の価格を改定した。

30年度は、子ども会や放課後等デイサービスの活動などの利用が多かった。

30年度の古代体験メニュー及び体験の実績は以下のとおりである。



瓦マグネットづくりの手順を説明するボランティア

古代体験アイテム及びバックヤード解説	体験者
「鑄造体験（和同開珎・ミニ銅鏡・ミニ銅矛）」（有料）	427名
「DAZAIFU デザインコレクション①（拓本とり）」	376名
「DAZAIFU デザインコレクション②（瓦マグネット作り）」（有料）	247名
「古代の衣装を着てみよう（古代衣装の試着）」	283名
「パズル土器（復元体験）」	1,654名
「大宰府政庁建物の復元」	395名
「触って感じてみよう銅矛・銅剣」	611名
「きゅうおに」のぬりえに挑戦しよう！！	293名
飛び出すむかしの宝箱	149名
バックヤード（第4展示室含む）解説	282名
体験者延べ人数	4,717名



土器パズル 古代の食器



投壺



ミニ銅鏡

○ボランティアイベントの開催

25年度末から開始した、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。27年度から、福岡県教育文化奨学財団の助成事業を受け、その一部を「博物館こども古代体験推進事業」として実施している。歴史系博物館実施のイベントとして「昔の遊び」「伝統的な技術」にこだわり、イベント会場には歴史的背景や関連する出土資料のパネルなどを設置して、参加者への歴史・文化の普及に供した。

30年度「ボランティアイベント」の実施は、以下のとおりである。

・おりがみでカプトを作ろう！ぎっちょうを体験してみよう！

期日：30年4月28日（土）

内容：五月の節句に合わせ、毎年恒例になったイベントである。屋外の「ぎっちょう」と屋内の「カブト」製作を組み合わせ、館内外どちらのメニューも楽しんでいただける内容とした。参加者数は20名であった。

・こども組紐教室 1 回目

期日：30年8月2日（木）

内容：24～26年度の研修によってボランティアが習得した「クテ打ち組紐技法」を活用し、27年度からこどもを対象に実施している体験講座である。道具を使わず指だけで組紐ストラップを作る技術を要するもので、慣れるまでは時間がかかるが、作り方を習得すれば糸の組み合わせを変えるだけで独自のストラップを完成させることができる。参加者は、最初は指を動かす順番などに苦労していたものの、覚えた後はいくつものストラップを作っていた。参加者数は16名であった。こども対象として実施したが、大人の参加希望があり対応した。

・こども組紐教室 2 回目

期日：30年12月15日（土）

内容：ストラップの完成を目指し、8月と同じ内容で「こども組紐教室（2回目）」を開催した。組紐は古代体験の中でも人気メニューのひとつであり、ボランティア内でも制作の補助にあたる人数が増えつつある。参加者数は11名であった。「こども組紐教室」としての募集であったが、8月、12月ともに大人の参加希望者からの問い合わせがあった。次年度は、大人対象の組紐講座を開催する予定である。

・Myおひなさま・組紐ストラップ作り

期日：30年2月24日（日）

内容：ひな祭りの季節に合わせ、毎年恒例になったおりがみによる自分だけのひな飾り作り、また組紐技法でストラップを作るイベントを開催した。ひな飾り作りは、未就学児から大人まで、誰もが楽しく満足感ある完成となるように、装飾の内容において複数のパターンを準備した。親子連れや年配の方々も楽しまれた。参加者数は20名であった。

○むかしのことシリーズリーフレットの作成

古代体験推進事業でリーフレットを作成した。30年度は古代衣装試着体験にあわせて、「古代の衣装の話」を作成した。

○出張古代体験

外部からの依頼に応じて、職員やボランティアが古代体験を出張するもので、30年度は悪天候のため中止になった1件を除き3件実施した。



子ども組紐教室の様子



おひなさまづくりのアドバイスをするボランティア



小郡アンビフェスタの様子



リーフレット古代衣装

実施日	イベント名	参加者数
6月23日（土）	熊本県立装飾古墳館ミュージアムキッズ	98名
7月21日（火）	大野城心のふるさと館オープニングイベント	201名
7月22日（日）	小郡アンビフェスタ	約200名

(6) 普及・活用事業

各種講座、講演会、ゼミなどを開催して専門的な内容の深化を図る一方、一般を対象とした各種イベントや子ども向けの体験講座、職員による来館団体への館内案内などを実施することで、文化財愛護思想の普及や文化財の活用に資するとともに、来館者の誘致を図った。

◎講座・講演会

○九歴講座

内容：毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。30年度は延べ1,175名の方が受講した。開演日、演題、講師、受講者数は次のとおりである。なお11月については、11月10日に開催した大宰府史跡発掘50年記念シンポジウム「大宰府史跡発掘50年」に代え、九歴講座は開催しなかった。

回数	開催日	演題	講師（所属）	受講者数
第1回	4月14日	特別展「大宰府への道」への招待	酒井 芳司（当館）	108名
第2回	5月12日	大宰府の諸司と官人	松川 博一（当館）	112名
第3回	6月9日	大宰府跡蔵司地区の発掘調査成果	下原 幸裕（県文化財保護課）	98名
第4回	7月14日	水城・上大利小水城跡と地域社会	石木 秀啓氏（大野城市教育委員会）	105名
第5回	8月11日	古代都市・大宰府	井上 信正氏 （太宰府市教育委員会）	115名
第6回	9月8日	大宰府の外交施設－鴻臚館－	菅波 正人氏（福岡市博物館）	93名
第7回	10月13日	柳河の明治維新	江島 香氏（柳川市教育委員会）	70名
第8回	12月8日	世界遺産「明治日本の産業革命遺産」登録3周年	桑波田 武志氏（鹿児島県）	120名
第9回	1月12日	朝倉橋広庭宮の所在と宮都	姫野 健太郎氏（朝倉市教育委員会）	202名
第10回	2月9日	「神楽と鬼、その正体を求めて」～豊前神楽に見る鬼の役割～	栗焼 憲児氏 （豊前市教育部・求菩提資料館）	66名
第11回	3月9日	基礎貫徹！やきものの基礎知識	遠藤 啓介（当館）	76名
受講者数総計				1,175名

○名誉館長講座

内容：西谷正名誉館長を講師とする、主に第4土曜日に実施する全12回の連続講座である。通年のテーマは「東アジア考古学入門」である。定員160名に対し196名の受講申し込みを受けた。また、前年度に引き続き、12回すべてを受講した受講生46名に皆勤賞表彰を行った。

開催日、演題、受講者数は次のとおりである。

回数	開催日	演題	受講者数
第1回	4月22日	歴史のあけぼの－旧石器時代－	131名
第2回	5月27日	狩猟・漁撈と採集の生活－縄文時代－	163名
第3回	6月30日	農耕文化の成立－弥生時代（1）－	190名
第4回	7月15日	農耕社会の展開と変化－弥生時代（2）－	136名
第5回	8月18日	東アジア文化圏の形成－古墳時代（1）－	143名
第6回	9月29日	東アジア文化圏の変容－古墳時代（2）－	130名
第7回	10月27日	東アジア世界の形成（1）－奈良時代（1）－	135名
第8回	11月24日	東アジア世界の形成（2）－奈良時代（2）－	138名
第9回	12月22日	東アジア世界の展開（1）－平安時代－	122名
第10回	1月26日	東アジア世界の展開（2）－鎌倉時代－	121名

第11回	2月23日	中華帝国の発展と東アジア（1）－南北朝・室町・戦国・安土桃山時代－	136名
第12回	3月23日	中華帝国の発展と東アジア（2）－江戸時代－	174名
受講者数総計			1,719名

○九歴ゼミ

内容：第2・第4水曜日の夜18：30～20：00（18：00受付開始）まで実施する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。7～9月、10～12月、1～3月の年間3期、各期6回ずつ開講した。毎回多数の応募があり、可能な限り受け入れる方向で対応した。結果、本年度は応募者全員を受講生とした。

開催期間、演題、講師、各期（6回）延べ受講者数は次のとおりである。

期	開催期間	演題	講師	延べ受講者数
第1期	7月11日～9月26日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む～菅原道真編～	松川 博一	332名
第2期	10月10日～12月26日	江戸時代の彫刻と絵画	井形 進 日野 綾子	331名
第3期	1月9日～3月27日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む～大宰府の歴史編～	酒井 芳司	252名
受講者延べ数総計				915名

○特別展・企画展記念講演会

内容：特別展や企画展の開催を記念して講演会を実施した。30年度は2回開催し、開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

開催日	演題	講師	受講者数
6月3日	特別開催記念講演会「大宰府への道－文明のクロスロード－」	佐藤信（東京大学名誉教授・大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事）	185名
7月22日	企画展開催記念講演会「幕末の城」	中西裕樹氏（しろあと歴史館前館長） 岡寺良（九州歴史資料館）	177名
受講者数総計			372名

○夕べのギャラリートーク

内容：当館では、他の観覧者の鑑賞の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を差し控え、その代わりに解説シートを無料で配布している。24年度からの新規事業として、当館の学芸員が、展示を担当した展示物について解説を行うギャラリートークを実施した。28年度までは、一旦閉館したのちに、18：30より再度開館、ギャラリートークは19：00より20：00までとしていたが、より参加者の層と利便性を再考し、29年度よりプレミアムフライデー（毎月最終金曜日）の実施とし、開催時間も閉館直後の16：30から17：30とした。

本年度は4回実施した。開催日、内容、講師、受講者数は次のとおりである。

回	開催日	内容	講師	受講者数
第1回	4月27日	特別展「大宰府への道Part1」	酒井 芳司	13名
第2回	5月25日	特別展「大宰府への道Part2」	小田 和利	24名
第3回	7月27日	企画展「幕末の城」	岡寺 良	27名
第4回	10月26日	企画展「発掘速報展2018」	小川 泰樹 大庭 孝夫	16名
参加者数総計				80名

○出前講座

内容：県政の課題など、県民の希望のテーマについて県職員がわかりやすく説明する「ふくおか県政出前講座」や放送大学など、県民の要請を受けて計 56 回の講座に赴いた。

30 年度の実績は以下のとおりである。

期日	依頼者	内容	講師	参加者数
4月22日	筑豊鉱山（工業）高校文化財を伝える会	炭鉱と学校の昭和史	渡部 邦昭	37名
4月22日	四王寺山勉強会ウォーキング	四王寺山三十三石仏の道を辿って	井形 進	60名
4月24日	山口ちょっといい会講座	宝満山の歴史	酒井 芳司	30名
4月28日	アクロス文化学び塾	大宰府への道ー古代都市と交通ー	酒井 芳司	70名
5月14日	貴賓館ボランティア研修		酒井 芳司	30名
5月19日	太宰府検定講座	大宰府への道	酒井 芳司	68名
5月25日	北筑後・南筑後管内文化財担当者会	福岡県の郷土部隊と関連歴史資料	渡部 邦昭	30名
6月6日	甘木地区コミュニティ協議会社会教育部会「しあわせ学級」	福岡県の歴史と文化財について	小田 和利	16名
6月9日	太宰府発見塾	大宰府の発掘調査に携わった人たち	伊崎 俊秋	120名
6月13日	若葉神津会	大宰府史跡等について	大庭 孝夫	20名
7月21日	甘木歴史資料館	魏志倭人伝を徹底して読む①	酒井 芳司	60名
7月26日	古都大宰府保存協会	観世音寺について	井形 進	69名
7月28日	甘木歴史資料館	魏志倭人伝を徹底して読む②	酒井 芳司	60名
7月29日	大牟田の空襲を記録する会	福岡県戦争遺跡調査について	小川 泰樹	35名
8月5日		日本墨書土器データベースの全国的達成に関わる報告会	酒井 芳司	20名
8月22日	日通福岡旧友会	大宰府史跡等について	小田 和利	27名
8月27日	筑紫南高年クラブ	福岡県と筑紫野の近代	渡部 邦昭	57名
9月13日	立石コミュニティセンター	大宰府史跡等について	小田 和利	46名
9月21日	こが歩きんしゃい会	大宰府史跡等について	小田 和利	18名
9月28日	みやま市教育委員会（歴史講座）	筑後地域の中近世城館	岡寺 良	30名
10月1日	県立図書館	福岡県の文化財について	吉村 靖徳	30名
10月13日	甘木歴史資料館	ひみこ講座「基礎貫徹！日本のやきもの全史①」	遠藤 啓介	24名
10月13日	北九州認定消費者学級「フェニックス」	九州歴史資料館の利用について	渡部 邦昭	5名
10月20日	ちくしの高年大学	磐井の乱とその豪族たち	酒井 芳司	30名

10月26日	みやま歴史講座	南筑後とみやまの鉄道史	渡部 邦昭	30名
10月27日	甘木歴史資料館	ひみこ講座「基礎貫徹！日本のやきもの全史②」	遠藤 啓介	22名
11月3日	大宰府学講座	大宰府史跡発掘50年記念 大宰府とは何か	松川 博一	47名
11月3日	苅田町歴史資料館	特別展「等覚寺の山岳信仰と松会」	岡寺 良	30名
11月10日	甘木歴史資料館	ひみこ講座「基礎貫徹！日本のやきもの全史③」	遠藤 啓介	19名
11月13日	つくし郷土史会	斉明天皇の九州遷都について	小田 和利	27名
11月20日	上津校区まちづくり振興会	仏像のみかたについて	井形 進	30名
11月20日	ちくしの高年大学	磐井の乱とその豪族たち	酒井 芳司	20名
11月23日	古代歴史文化協議会（江戸東京博物館企画展）	展示品解説	吉田 東明	37名
11月24日	古代歴史文化協議会（江戸東京博物館企画展）	福岡県の玉文化	吉田 東明	49名
11月24日	大刀洗町公民館講座《ビギナーズ歴史倶楽部》	大宰府史跡等について	小田 和利	20名
11月24日	甘木歴史資料館	ひみこ講座「基礎貫徹！日本のやきもの全史④」	遠藤 啓介	21名
12月1日	甘木歴史資料館	ひみこ講座「基礎貫徹！日本のやきもの全史⑤」	遠藤 啓介	20名
12月1日	伊都国歴史博物館	伊都学「徹底解説！魏志倭人伝 前編」	酒井 芳司	100名
12月2日	秋月街道シンポジウム実行委員会	近代朝倉地区の鉄道網整備 - 両筑軌道を中心に -	渡部 邦昭	60名
12月7日	太宰府市立学業院中学校	仏像の見方	井形 進	276名
12月22日	佐賀市教育委員会	肥前国府講座「観世音寺と筑前国分寺」	小田 和利	18名
1月12日	北九州認定消費者学級「フェニックス」	大宰府史跡等について	大庭 孝夫	20名
1月17日	粕屋町歴史講座	万葉歌にみる送別の宴 - 蘆城駅家と夷守駅家 -	松川 博一	64名
1月26日	別府大学	文化財の修復と文化財科学の世界	加藤 和歳	150名
2月1日	小郡市立大原中学校	仏像の見方	井形 進	106名
2月12日	貴賓館ボランティア	懐かしの旧福岡県庁	渡部 邦昭	30名
2月14日	宮若市歴史・文化財保護ボランティア講座	鞍手郡の中近世城館	岡寺 良	40名
2月16日	太宰府発見塾	福岡県と将来の大宰府史跡	吉村 靖徳	150名
2月21日	那珂川南中学校	学芸員の仕事	加藤 和歳	40名

2月23日	福岡共同公文書館	近代日本の府県庁舎— 旧福岡県庁をめぐる建 築資料と歴史資料—	渡部 邦昭	78名
3月12日	つくし郷土史会	福岡城と筑前六端城	岡寺 良	40名
3月29日	吉富町文化協会	京築地域の鉄道史	渡部 邦昭	30名

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○来館者への施設・展示解説

来館者により深く当館を理解していただくために、事前申込みのあった団体に対して、職員による中庭回廊や施設の解説、平日のボランティアによる古代体験の対応などを行っている。また施設の解説については、当日申込みの団体に対しても可能な限り対応している。解説の依頼はシニアクラブや生涯学習関係団体を中心ではあるが、学童保育など古代体験と合わせて当館を利用したいという団体も利用されている。

30年度は28団体、延べ752名の方々に案内を行った。

○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」

来館者の多様な閲覧希望に対応するとともに、収蔵品の普及・公開の促進を図るため、来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見る事ができるコーナーである。土・日・祝日限定で、収蔵品の活用・公開の促進を図るため、「飛び出すむかしの宝箱」として来館者が閲覧したい収蔵資料をその場で見る事ができるコーナーを設け、多様な閲覧希望に対応している。実施日に閲覧希望者が申請すれば、収蔵品に触れることができるとともに、埋蔵文化財担当者から解説を聞くこともできる。開催中の企画展等の展示内容に対応してメニューの追加を図っており、現在5メニュー各12点、計60点を公開している。

30年度の利用状況は次のとおりで、昨年、一昨年度に引き続き発掘速報展メニューの利用者が最も多い。次いで多いのがこれも同様に縄文時代メニューで、通常は気軽に手にできない古代の遺物に触れられる点が人気の要因であろう。総計は304名で昨年から大幅に減少しているが、これは第1・3展示室閉鎖に伴う影響によるもの大きい。

従来の利用実績を鑑み、31年度からは大幅にメニューの見直しを図ることとしている。

メニュー	利用件数
発掘速報展メニュー	91名
明治・大正・昭和メニュー	45名
縄文時代メニュー	81名
戦国時代メニュー	50名
江戸時代メニュー	37名
利用者数総計	304名



打製石鏃



火縄銃弾



磨製石剣

◎体験教室・イベント

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じていただくことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。

30年度も恒例の夏休みを中心に、小学生などを対象とした体験教室を中心に、大人にも楽しんでもらえるようにコンサートなども行った。他機関や団体との連携イベントなどの開催し、秋には博物館子ども古代事業で実施した「古代体験まつり」を新たに実施した。

連携事業としては、福岡県子育て推進課に委託されたブランナビプラスと共催で実施した「出会い事業」が新たに加わった。

○桜コンサート

期日：30年4月1日（日）10：00～16：00

主催：桜コンサート実行委員会

共催：九州歴史資料館・三国中学校区なかよし地域ネット人権のまちづくり推進連絡会・三国小学校区協働のまちづくり協議会・のぞみが丘小学校区協働のまちづくり協議会

内容：28年度から共催で実施しているイベントである。地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が開催するもので、地域の個人や団体の参加型のコンサートである。数々の音楽好きの方々が、中庭で素晴らしい演奏やパフォーマンスを繰り広げた。また、当館の古代体験も知ってもらえる機会となり、多くの方が体験を楽しまれた。参加者は746名であった。



桜コンサートの様子

○おごおりバザール

期日：30年4月8日（日）9：30～14：00

内容：小郡市観光協会と共催で、本館を西鉄レール&ハイクのゴール地点とし、前面の芝生広場に小郡市観光協会がバザールを開いた。参加者は1,242名であった。



レール&ハイクのゴールの様子

○小郡高等学校琴部演奏会茶道部茶会

期日：30年5月3日（木・祝）11：30～15：15

内容：当館の近隣に所在する福岡県立小郡高等学校の琴部は、外部講師を招いて練習を行う本格的な活動をされている。当館の移転開館記念セレモニーやイベントでの演奏がご縁で、27年度から卒業演奏会当館を会場に開催している。30年度からは茶道部の茶会も加わった。当日は第4展示室を会場に午前中に茶道部の茶会を2席行い、午後には赤い毛氈を敷き、30名の生徒と教員による優美な琴の演奏が行われ、参加者は130名であった。



琴部演奏会の様子

○イベント「特別展大宰府史跡発掘50年記念特別展「大宰府への道－古代都市と交通－」開催記念茶会」

期日：30年5月20日（日）10：00～15：00

内容：九州歴史資料館では、30年4月24日（火）から6月17日（日）の会期で、特別展「特別展大宰府史跡発掘50年記念特別展「大宰府への道－古代都市と交通－」」を開催した。その開催を記念して企画した本茶会は、小郡市文化協会裏千家との共催で25年度から特別展開催期間中に実施しているもので、共催の連携企画の相乗効果により例年多数の参加者を得ている。

今回も、その開催記念行事とすることで、展示をより多くの方に観覧いただく契機とした。なお、当日は甘木絞り連絡協議会による甘木絞りの販売も実施し、527名が参加した。



茶会の様子



甘木絞りの物販

○きゅうれき七イベント

期日：30年7月7日（土）

内容：当イベントは、幅広い層に楽しんでいただく内容にすることで、地域の方々に来館してもらい、当館の事業を理解してもらう機会としたものである。本年度は、小郡市で活動する三国っこ劇団と筑紫野市で活動するダンススタジオM2のキッズダンスの出演を予定していたが、大雨のため中止した。

○ナイトミュージアム in きゅうれき 夏

期日：30年7月28日（土）15：30～20：50

内容：閉館後の博物館を見学するという非日常の体験を提供し、夏休みの思い出づくりに寄与することにより、館に対する興味と親しみをもたせる。閉館後から夜間という時間帯を生かし、火起こし体験や夜の博物館探検、天体観測など多彩な活動を実施した。48名が参加した。

○なるほど!! こども歴史教室 2018「きゅうおにの謎にせまる」

期日：30年8月10日（金）13：30～15：30

内容：30年度が大宰府史跡発掘50年記念の年にあたることから、大宰府史跡出土の鬼瓦をテーマに子供向け関連イベントとして開催し、9名の参加者があった。まず研修室において、当館職員がパワーポイントを使い、鬼瓦とはそもそも何かということにはじまり、当館のマスコットキャラクターである「きゅうおに」のモデルとなった大宰府式鬼瓦のルーツや特徴などについて解説を行った。その後、指導主事や九歴ボランティアの指導のもと、粘土でオリジナル鬼瓦マグネットづくりを行った。土・日・祝日に行っている古代体験コーナーでは、粘土を型に押し込んで同型のものを作るが、今回は子供の自由な発想にまかせて手びねりで制作した。マグネットが焼き上がるまでの間、展示室で出土した鬼瓦の前に学芸員が解説を行い、最後に研修室に戻り仕上げを行った。



マグネットの制作風景

参加費：500円（保険料、材料費）

○アクロスミュージアムコンサート

期日：30年10月8日（月・祝）13：30～15：30

内容：アクロス福岡との共催事業で実施している事業で、例年は特別展に合わせて開催記念イベントとしていた。30年度は春に特別展を開催したため、開催時期を合わせる事ができなかったため、30年度は単独で「アクロスミュージアムコンサート in 九州歴史資料館」を開催した。



コンサートの様子

博物館でプロのアーティストによる本物の音楽に触れる機会を作ることで、当館に親んでいただくとともに、企画展を観覧いただき、企画展のギャラリートークを行うことで、より深く展示品を理解していただき、本県の歴史や文化への理解の深化と文化財保護思想の普及に資することを目的とした。

大人から子どもまで広い年代の方に楽しんでもらえるように、著名な楽曲である「亜麻色の髪の乙女」

「花のワルツ」「ニューワールド」「美しく青きドナウ」などを、宇野健太（チェロ）、岩下真麻（ピアノ）、葉石真衣（ヴァイオリン）の3名に奏でていただいた。また、併せて特別展のギャラリートークも行い、参加者は281名であった。

日程	プログラム
11：30～12：00	ギャラリートーク Part. 1（第1展示室）
13：30～14：00	アクロスミュージアムコンサート 第1部
14：15～14：45	ギャラリートーク Part. 2（第1展示室）
15：00～15：30	アクロスミュージアムコンサート 第2部

○博物館子ども古代体験推進事業「古代体験まつり」

期日：30年11月4日（日）10：00～16：00

内容：過去にボランティアバス研修で訪れた県内の3つの博物館・資料館と、関係の深い機関が行っている古代体験を招聘して当館で一日で体験できるようにした。糸島市伊都国歴史博物館からは「銅鏡・銅剣・巴形銅器の铸造体験」、宗像市海の道むなかた館からは「土笛作り」、八女市岩戸山歴史文化交流館からは「石庖丁作り」と「弓矢体験」、小郡市埋蔵文化財調査センターからは「印鑑作り」、太宰府市日本遺産活性化協議会からは「西の都VR」が出展し、当館からも新しく導入した「土器パズル須恵器・土師器」・「投壺体験」・「復元石棺発掘体験」の3つの新メニューと人気の「機織り体験」を出展した。また、開催中の企画展「発掘速報展2018」に展示された伊良原地区遺跡にちなんで、みやこ町の物産直売所「国府の郷（さと）」の物産販売を行い、172名の参加があった。



海の道宗像館の土鈴作りの様子



石棺発掘体験の様子

○ナイトミュージアム in きゅうれき 冬

期日：31年2月16日（土）18：00～21：00

内容：閉館後の博物館を見学するという非日常の体験を提供し、冬休みの思い出づくりに寄与することにより、館に対する興味と親しみをもたせる。閉館後から夜間という時間帯を生かし、収蔵品に触れる体験や天体観測など多彩な活動を実施した。86名の参加があった。



科学実験ショーの様子

○“古代米の本格栽培にむけて…”プロジェクト

期間：30年6月～10月

内容：当館には、古代米などの栽培農園を持たないため、現在のところ本格的な植物栽培などの実験考古学的イベントを行うことができないが、将来的なイベント実施に備え、24年度からパンケースあるいはコンテナによる古代米栽培を実施している。30年度は、コンテナ6箱分の赤米・黒米（原種は長崎県対馬のもの）栽培を当館の中庭にて、学芸研究班員と保存管理班員の担当の元に行った。例年どおり、発芽・田植えの後、順調に生育し、収穫まで至ることができた。6年目の実施となり、収量の安定など、コンテナによる古代米栽培のノウハウが蓄積されてきている。31年度以降も実施する予定である。

○いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」

主催：久留米まち旅博覧会事務局

共催：九州歴史資料館

内容：「いつでもまち旅」は、久留米まち旅博覧会事務局主催の事業で、自元に暮らす人々が普段から慣れ親しんだ地域の宝物で、自らが訪れる人をもてなす手作りの旅プランをコンセプトに行っている。当館は26年度から「いつでもまち旅」に参画しており、一般の来館者が立ち入ることのできない博物館の裏側を学芸員が案内するバックヤードツアーと本物の瓦を用いた拓本を用いたブックカバーの作成を行っている。参加人数は約20名であった。

◎その他の機関・団体との共催事業

○全国歴史民俗系博物館協議会

7月5日（木）・6日（金）に、大阪市において全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）の第7回年次集会在開催された。5日は大阪歴史博物館講堂にて総会と研究集会在行われ、6日は施設見学会があつた。北海道から沖縄におよぶ全国の博物館関係者を中心に、134名が参加した。

歴民協は、23年3月11日の東日本大震災をきっかけに設立され、全国を9つのブロックに分け、館長が設立の呼びかけ人となつた12館が、各ブロックの幹事館となつた。九州ブロックは、九州国立博物館と九州歴史資料館が幹事館を務めている。

1日目の総会では、大阪北部を震源とする地震による近畿ブロックの被災状況についての報告があつた。文化財の被害は軽微なものが多いものの、国立民族学博物館では、スプリンクラーの故障により、展示資料や図書の水損がはなはだしいことが報告された。ついで各ブロック報告として、熊本地震による震災と福岡県朝倉市・東峰村の豪雨災害についての報告があり、後者については、文化財保護課から提供された資料にもとづき当館が報告した。

午後の研究集会上では、「文化財・観光・地域」をテーマとする6本の報告があつた。報告者は、京都大学総合博物館長の岩崎奈緒子氏、兵庫県小野市立好古館副館長の粕谷修一氏、和歌山県立博物館の大河内智之氏、大阪府吹田市立博物館の五月女賢司氏、大阪市立住まいのミュージアム館長の谷直樹氏、竹中大工道具館の坂本忠規氏である。その後、報告者をパネラーとする討論が行われた。討論は、報告の時間が予定を大幅に超過したため、当初の時間を30分余り短縮して行われた。その結果として、議論は文化財保護法の改正への批判的意見とインバウンド対応の実際などについてが中心となつた。

2日目は、開催地の施設見学会を実施している。今回は、大阪コースと姫路コースがあつた。30年度の幹事を務めた代表幹事館が、大阪歴史博物館と兵庫県立歴史博物館であり、それぞれの館が担当して二つのコースを設定したためである。

当館は姫路コースに参加したものの、折から日本列島全体を襲つた梅雨の大雨のため、当初予定していた姫路駅から姫路城までの城下町跡の案内や、姫路城じたいの案内のイベントは中止となり、個々に施設を見学するという事になった。修理が完了した姫路城を見学し、また兵庫県立歴史博物館の常設展示を見学した。



歴史民俗系博物館協議会風景（左）研究集会（右）総会

○等覚寺の松会・国重要無形民俗文化財指定 20 周年記念

九州歴史資料館・苅田町歴史資料館共同開催特別展「等覚寺の山岳信仰と松会」

会期：30年11月3日（土・祝）～12月16日（日）

主催：九州歴史資料館・苅田町教育委員会

会場：苅田町歴史資料館（福岡県京都郡苅田町富久町1丁目）

内容：福岡県京都郡苅田町の等覚寺は、彦山六峰の一つとして古来より山岳信仰の拠点として繁栄してきた。等覚寺集落にある白山多賀神社で行われる国指定重要無形民俗文化財の「等覚寺の松会」はその象徴として有名であるが、白山多賀神社や国指定天然記念物の青龍窟は、等覚寺の山岳信仰・霊場遺跡として古代・中世に遡ることが過去の発掘調査によって判明している。また九州歴史資料館では、苅田町教育委員会の協力の下、28～30年度の3ヶ年をかけ、日本学術振興会の科学研究費の助成を受けて、等覚寺の山岳信仰のかつての姿を復元するため、等覚寺および関連遺跡の現地調査を進めてきた。28年に国の史跡となった英彦山の総合調査成果とも併せ、英彦山信仰における等覚寺の山岳信仰の実態をおぼろげながらもつかむことができつつある。

またその一方で、30年は、「等覚寺の松会」が国の重要無形民俗文化財に指定されてからちょうど20年の節目の年にも当たる。ただ指定からの長い年月によって、等覚寺集落の過疎化は進み、後継者の問題など行事存続の問題に直面しているのも事実である。

本展は上記の研究成果を元に、これまでほとんど知られてこなかった等覚寺の山岳信仰の実態を明らかにすると共に、松会の歴史的背景を、展示品約150点を元に紹介した。そのことにより、改めて「等覚寺の松会」の持つ歴史的意義と行事継承の意味を考える機会とした。

なお、関連事業として特別展開催記念シンポジウム「等覚寺の山岳信仰の実像を語る」を12月9日（日）

13:30～16:30に苅田町三原文化会館ホールにて開催した。特別展「等覚寺の山岳信仰と松会」の様子報告者は、山本義孝（袋井市歴史文化館長）、國生知子（甘木歴史資料館）、若杖善満（苅田町教育委員会）、岡寺 良（九州歴史資料館）で、参加者100名を超える盛況となった。さらに、11月3日（土・祝）10:00～、14:00～、12月9日（日）10:00～には、展示解説を行った。



○第8回九州山岳霊場遺跡研究会「肥後の山岳霊場遺跡—池辺寺と阿蘇山を中心に—」

主催：九州山岳霊場遺跡研究会

共催：熊本市・肥後の里山ギャラリー・九州歴史資料館

後援：阿蘇神社・西巖殿寺・池辺寺跡財宝管理委員会・阿蘇市教育委員会・肥後考古学会・熊本歴史学研究会・熊本地名研究会

期日：30年8月25日（土）・26日（日）

参加人数：1日目45名・2日目180名

内容：8月25日（土）

現地研修会（肥後の里山ギャラリー「阿蘇山と池辺寺」展覧会・池辺寺跡）

8月26日（日）

研究集会（熊本市国際交流会館6階ホール）

基調講演「肥後における山岳信仰と修験者」（阿蘇品保夫）

研究報告1「池辺寺跡の調査成果」（網田龍生）

研究報告2「阿蘇山信仰—古坊中と麓坊中—」（佐藤征子）

研究報告3「肥後の中世山岳信仰ゆかりの仏像と神像」（有木芳隆）

シンポジウム「肥後の山岳霊場遺跡を考える」

○出会い事業

期日：31年1月20日（日）10：00～15：30

主催：福岡県出会い・結婚応援事務局

共催：九州歴史資料館

内容：当館で、福岡県子育て推進課に委託されたブランナビプラスが実施した出会いイベントを行った。古代体験の鬼瓦マグネット作りを行い当館のボランティアが補助した。14名が参加した。

○九州歴史資料館・三沢遺跡の森 自然体験活動

主催：NPO法人三沢遺跡の森を育む会

共催：九州歴史資料館

当館に隣接する県指定史跡三沢遺跡とその周辺の自然環境保全を目的として25年度に発足したNPO「三沢遺跡の森を育む会」と当館の共催事業として周辺住民への啓発活動を30年度も開催した。イベントを通じて三沢遺跡の森ばかりでなく、自然環境保全の意識を育むことを目指した。

開催日、内容、参加人数は以下のとおりである



研究会の様子

開催日	内容	参加人数
12月16日（日）	燭蠟で作るマイキャンドル（共催）	85名

(7) 重点施策 福岡国際交流史発信事業

◎大宰府史跡発掘調査 50 年事業概要

○大宰府史跡発掘 50 年記念シンポジウム

日程：30 年 11 月 10 日（土）13:30～17:00

会場：太宰府市中央公民館「プラム・カルコア太宰府」市民ホール

主催：福岡県教育委員会

共催：太宰府市・太宰府市教育委員会・公益財団法人古都大宰府保存協会

内容：30 年は、昭和 43 年に大宰府史跡の発掘調査が始まってから 50 年目となる。この節目の年にあたり、大宰府史跡の調査研究を行ってきた福岡県教育委員会では、これまでの調査研究成果を踏まえた最新の成果を紹介するシンポジウムを開催した。

シンポジウム開催にあたり、50 年の長きにわたってずっと大宰府史跡の発掘調査を御指導いただいた、大宰府史跡調査研究指導委員会の小田富士雄委員長（福岡大学名誉教授）に「大宰府史跡発掘 50 年の成果」というテーマで講演をいただいた。

その後、大宰府史跡調査研究指導委員会の佐藤信副委員長（人間文化研究機構理事・東京大学名誉教授）にコーディネーターを務めていただき、「大宰府史跡発掘 50 年」というテーマでシンポジウムを開催した。シンポジウムでは九州歴史資料館学芸調査室の小田和利室長、同松川博一班長、大野城心のふるさと館の赤司善彦館長、太宰府市教育委員会文化課の井上信正氏、（公財）古都大宰府保存協会の井上理香事務局長の 5 名に御登壇いただき、大宰府史跡に関して様々な観点から議論が行われた。参加者は 351 名。

○ロゴマーク・のぼり作成

50 年・100 年記念事業の浸透を図り、大宰府史跡に関しての理解を一層深めるとともに、100 年事業の周知に役立たせることを目的とし、統一ロゴマークとのぼりを作成した。

ロゴマークは作品を公募することで公募対象は大宰府史跡に関連する筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・宇美町の 5 市町に所在する学校に在籍、または在住の少学 5 年生～高校生とし、小学校高学年・中学生・高校生の 3 部門の中から 1 点を選出し、最優秀賞をロゴマークとして採用し、2 点を優秀賞とした。

夏休みの課題として取り組めるように 7 月初頭に応募を開始したところ、893 点の応募があった。3 点のみの応募だった高校生部門を除き、1 次審査として、館内の職員による投票により各 10 点を選出し、県立図書館学芸員の助言の元、文化財保護課と九州歴史資料館の代表者により優秀賞・最優秀賞の選出を行った。最優秀賞となった作品は、デザイナーによる加工を施し、カラー版とモノクロ版を作成した。

入賞者には 11 月 10 日に行われた大宰府史跡発掘調査 50 年記念シンポジウムにおいて、表彰を行い、図書券と九州歴史資料館古代体験グッズを贈呈した。

応募作品は 11 月 143 日から 12 月 2 日まで、九州歴史資料館エントランスの飲食スペース壁面に掲示し、本事業の周知と来館者増と図った。

のぼりは、100 年記念事業でも使えるデザインにしており、100 年記念事業に関わる 5 市町に配布した。当館では正面の



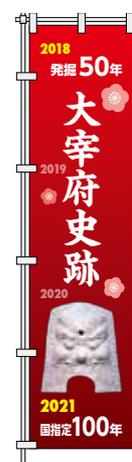
記念シンポジウムポスター



シンポジウムの様子



決定したロゴマーク



作成したのぼり

柱に取り付け、来館者への周知を図った。



ロゴマーク表彰風景



応募作品の展示風景

○大宰府史跡発掘 50 年記念シンポジウム・九州国立博物館「大宰府学研究」事業シンポジウム「展望・大宰府研究 大宰府の官衙－大宰府政庁周辺官衙跡の調査から－」

期日：30 年 12 月 15 日（土）10:00～17:00

会場：九州国立博物館 ミュージアムホール

主催：九州歴史資料館・九州国立博物館

共催：（公財）古都大宰府保存協会

後援：太宰府市・太宰府市教育委員会

内容：「大宰府史跡発掘 50 年記念事業」の一環として、また、九州国立博物館特集展示「大宰府研究のあゆみ」の関連イベントおよび九州国立博物館「大宰府学研究」事業として開催されたものである。



九州国立博物館「大宰府研究」事業シンポジウム

当館では、21 年度から 10 年間かけて大宰府政庁周辺官衙跡の発掘調査成果をまとめた正式報告書を刊行しており、さらにも蔵司地区の発掘調査を実施し、倉庫群が確認されている。本シンポジウムは、これらの成果にもとづき、考古学と文献史学の両面から大宰府の官衙と官人の実像に迫った。プログラムは以下のとおりであり、参加者は 277 名。

内容は、森公章東洋大学教授による記念講演「大宰府の官衙」、研究報告として、小田和利（当館）「前面官衙跡の調査研究成果」、下原幸裕（県文化財保護課）「蔵司地区官衙跡の調査研究成果」、小嶋篤（九州国立博物館）「鉄から見た大宰府官衙」、松川博一（当館）「大宰府の諸司－蔵司を中心に－」があり、小澤佳憲（九州国立博物館）・酒井芳司（当館）をコーディネーターにパネルディスカッションをおこなった。



大野城心のふるさと館でのパネル巡回展

○大宰府史跡発掘 50 年記念パネル巡回展

筑紫地区の文化関連施設他で実施した。

期間	会場	期間	会場
4 月 24 日～ 6 月 17 日	九州歴史資料館	9 月 11 日～ 12 月 2 日	九州歴史資料館
4 月 24 日～ 11 月 4 日	大宰府展示館	10 月 2 日～ 10 月 14 日	九州国立博物館
5 月 24 日～ 6 月 17 日	北九州市立自然史・歴史博物館	10 月 23 日～ 11 月 11 日	宇美町立図書館
7 月 10 日～ 7 月 22 日	ミリカローデン那珂川	10 月 30 日～ 11 月 18 日	大野城心のふるさと館
7 月 24 日～ 8 月 24 日	春日市奴国の丘歴史資料館	11 月 5 日～ 11 月 11 日	アクロス福岡
9 月 4 日～ 9 月 30 日	筑紫野市歴史博物館	12 月 3 日～ 12 月 14 日	福岡県庁 11 階
9 月 8 日～ 9 月 30 日	太宰府市文化ふれあい館		

◎朝鮮通信使総合調査

○「黒田家文書」「小笠原家文書」翻刻の検証

30年度は、県立図書館が所蔵していた、ユネスコ世界の記憶登録資料15点を含む、黒田家文書（総数597件、1,016点）が、当館に移管された。世界の記憶登録資料15点は、県立図書館の事業として修理を実施した。

黒田家文書は、当館への移管分以外に、福岡市博物館、筑紫女学園に所蔵されており、当館移管分は、福岡藩の藩政資料である。藩の記録の大部分は第二次世界大戦中に焼失している。

当該文書は3次にわたって福岡県に寄贈され、県立図書館が保管してきた。寄贈の経緯は以下の通りである。

- ・黒田家文書（第1次） 昭和39年に、黒田長礼氏より福岡県に寄贈されたもの。黒田家執事、藤井甚太郎氏蒐集分（40点）も加えられている。
- ・黒田家文書（第2次） 昭和49年に、黒田家から追加での寄贈を受けたもの。
- ・黒田家文書（第3次） 平成7年度、中原三十四氏から、古書として流通していたものを購入して県立図書館に寄贈されたもの。

○朝鮮通信使関連遺跡群調査

福岡県糟屋郡新宮町の相島は、朝鮮通信使が立ち寄った島であるが、島内には滞在した通信使をもてなした客館の跡などの関連遺跡があり、「朝鮮通信使関連遺跡群」として新宮町の指定文化財（記念物）となっている。本事業では、これら関連遺跡群の考古学的なデータを得るため、2ヶ年で調査を実施することとした。一年目の本年度は、朝鮮通信使が上陸した際に利用された先波止、ならびに福岡藩の遠見番所の伝物見櫓の石垣の測量調査（レーザー計測）を実施した。次年度は、通信使の随行者が上陸したとされる前波止の測量調査、ならびに遠見番所の測量調査の継続調査を実施する予定である。



遠見番所跡の石垣

(8) 広報活動

◎一般向け広報

当館では、25年度から学芸調査室に「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。予算の関係から有料広告や大々的な広報は難しいものの、ホームページやポスター・チラシはもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な無料広報媒体を活用し、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っており、特に30年度からは近隣の3つの公民館では回覧板に添付してもらうことにした。こうした周知方法では、展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて、毎企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて、当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行っている。

◎他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを掲示している。予算の関係で配布はできないものの、当館ホームページや館内で紹介し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。今後は相互リンクや広報資料の共有などを進めていく予定である。

○大野城市こころのふるさと館オープニングイベント

主催：大野城市こころのふるさと館

会期：30年7月21日（土）

会場：大野城市こころのふるさと館3階

内容：大野城師こころのふるさと館オープニングイベントで、各課や出先機関がブースを設けて来庁するこどもたち対象のパネル展示や体験事業を実施するものである。当館は古代体験で使用している拓本・政庁パズル・土器パズルの体験ブースを出店し、大型パネルを掲示した。201名の参加があった。



心のふるさと館オープニングイベント風景

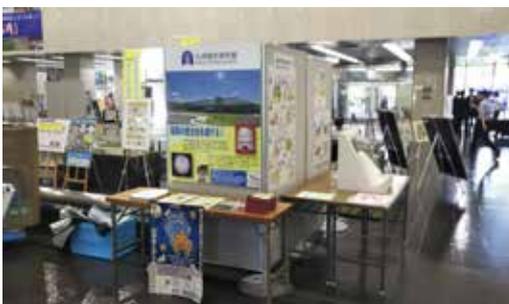
○県庁夏休みこども企画「わたしたちの福岡県展 2018」

主催：福岡県県民情報広報課

会期：30年8月1日～8月24日

会場：福岡県庁1階ロビー

内容：福岡県県政情報課主催の夏休みイベントで、各課や出先機関がブースを設けて来庁するこどもたち対象のパネル展示や体験イベントを実施するものである。当館は「きゅうおにとタイムトラベル」のうち、縄文時代と弥生時代の2枚のイラストパネルを掲示し、どこが違うか探してもらった。



夏休み子ども企画展示風景

併せて、大宰府政庁の屋根に葺かれた大宰府式鬼瓦の実物大石膏レプリカを展示し、自由に触ってもらい立体感と質感を感じることができる展示を行った。また、8月3・10日にはワークショップとして古代体験の土器パズル・鬼瓦パズルと政庁パズルを体験できるブースを設置し、2日間で112名の参加があった。

○県政 PR 展示

主催：福岡県立図書館

会期：30年5月10日～6月17日

会場：福岡県立図書館1階ロビー

内容：県立図書館では、本館1階第1閲覧室で県政に関わるPR活動とともに関係する書籍を展示する事業を行っている。今年度は、特別展大宰府史跡発掘50年記念特別展「大宰府への道ー古代都市と交通ー」開催記念茶会のポスターを掲示した。

○博学連携、学習支援に向けた広報

教室では味わうことのできない感動ある学習が、博物館を活用することによって可能となる。実際にむかしの人がつくり、使っていた出土品などの展示資料にふれる学習を1校でも多く、1人でも多く体験してもらえよう、当館の活用を呼びかける広報を行っている。

年度初めの小郡市校長会をはじめ学校支援に向けた広報資料「小学校・中学校による活用のご案内」の配布、学校訪問、研修会、棚入れや郵送など、様々な場、方法で広報を行い、館の活用促進を図った。

29年度の活用実績が来館学習13校、スクールミュージアム事業4校、職場体験8校、出前授業0校（豪雨により中止）に対し、30年度は来館学習9校、スクールミュージアム事業3校、職場体験13校、出前授業1校であった。今後も、更に多くの学校による活用をめざしていきたい。

このほか30年度に行った主な広報は以下のとおりである。

- ・ホームページ・ツイッターの情報更新・管理
- ・ポスター・チラシの配布：歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載：教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおりほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：「博物館研究」「古代文化」ほか
- ・情報サイトへの情報提供：イベントバンク・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供

なお、館のアピールを行うため、29年度から継続して「福岡県観光パスポート（ふくおかよかここパスポート）」と「ミュージアム周遊パス」に参加した。

「福岡県観光パスポート（ふくおかよかここパスポート）」は福岡県が、株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する事業である。「ミュージアム周遊パス」は大規模スポーツ国際大会の開催を契機として、九州各県の美術館・博物館等文化施設への周遊を促進する取り組みで、参加して施設情報を掲載した。

(9) 実習・研修

◎実習

○博物館実習

30年度は4大学から5名の大学生を受け入れ、8月21日（火）～8月31日（金）の10日間、下記の内容で実施した。（8月26日（日）は休み）

参加した実習生の在籍校および人数は以下のとおりである。

大学名	学部名	学科名	実習生（名）
久留米大学	文学部	心理学科	1
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	1
		英語科	1
福岡大学	人文学部	歴史学科	1
佐賀大学	文化教育学部	国際文化課程	1

日程	午前	午後	担当
第1日	開講式・オリエンテーション	講話「学芸員の実務」 施設見学 図書資料整理	広報普及班 学芸研究班
第2日	歴史資料の取り扱い		広報普及班
第3日	西谷正名誉館長講和	資料の写真撮影	広報普及班 学芸研究班
第4日	考古資料の取り扱い		学芸研究班
第5日	教育普及（石棺づくり） 教育普及（古代体験） 名誉館長講座受講		広報普及班
第6日	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
第7日	資料の保存修復と保管		学芸研究班
第8日	大宰府史跡の見学		調査研究班
第9日	遺跡の調査と測量		調査研究班
第10日	博物館の保存環境 実習のまとめ・閉講式		保存科学班 広報普及班

◎平成30年度福岡県文化財担当職員研修「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」

県内市町村文化財担当職員の埋蔵文化財の調査・事務処理の知識および技術の向上を目的として、発掘調査等の実務経験が少ない新採職員等を対象とした全10回の基礎研修を実施した。参加者は述べ89人。開催日や講義内容については以下のとおりである。

「埋蔵文化財発掘基礎研修」研修内容

回	開催日		テーマ	講義	内容
1	5月11日	埋 文 事 務 手 続 き	埋蔵文化財に関する法律	講義	文化財保護法・関連法令
			埋蔵文化財事務手続き		事務手続きの流れ、九州地区基準・ 県取扱要綱
					事前審査
					試掘確認調査
					埋蔵文化財関連国庫補助事業

2	6月15日	発掘調査	事前準備	講義	発掘調査着手にかかる諸手続き
			本調査		着手前の現地確認
					調査計画の策定 作業員の募集と雇用 安全衛生管理 機材搬入 表土剥ぎ 遺構検出 遺構掘り下げ 図化 写真撮影
事後処理	撤収・埋め戻し～引渡し 終了後の保護法上の手続き等				
3	7月13日	発掘調査	個別遺構の調査	講義	カマド、甕館、古墳等の調査
			図化実技	実習	トータルステーション レベル 平板測量・コンター図作成 1/20 図化
4	8月10日	発掘調査	図化実技	実習	杭打ちから 1/20 図化まで
5	9月14日	発掘調査	発掘調査実技	実習	遺構検出・掘削の基礎
6	10月12日	整理・報告書	整理・報告書作成	講義・実習	整理作業の流れ
				講義・実習	遺構割付、遺物割付
				講義	文章の作成、編集、入稿、校正
7	11月9日	整理・報告書	実測	実習	土器実測
8	12月14日	整理・報告書	実測・拓本	実習	石器、金属器等実測 拓本
9	1月11日	作成	トレース	講義・実習	トレースの方法 トレース（アナログトレース）
			写真撮影	講義・実習	写真撮影の方法 写真撮影（遺物写真）
10	2月8日	保存管理	特殊遺物の対応	講義	特殊遺物の対応
			遺物、記録類の保存管理		遺物の保存処理・科学分析の方法と外注の実際 整理後の遺物と記録類の保存管理と活用
				視察	遺物、記録類の保存管理と保存処理の事例

なお、次年度以後の研修の内容や参加対象、実施回数等を検討するため、全10回の研修修了後に全市町村を対象としてアンケート調査を実施している。

(10) 刊行物一覧

30年度は以下の報告書等を刊行した。

No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集 44』	3月
2	『九歴だより NO. 47』	4月
3	『九歴だより No. 48』	10月
4	『大宰府への道 - 古代都市と交通 - 』	4月
5	『幕末の城 - 近世の沿岸警備と幕末期城郭 - 』	6月
6	『大宰府史跡発掘 50年』	11月
7	『大宰府史跡ガイドブック 3 特別史跡大宰府跡』	11月
8	『九州歴史資料館解説シート 70 シルクロードの文化遺産 2』	9月
9	『九州歴史資料館解説シート 71 発掘速報展 2018- 近年の調査成果① - 』	9月
10	『九州歴史資料館解説シート 72 発掘速報展 2018- 近年の調査成果② - 』	9月
11	『九州歴史資料館解説シート 73 福岡鉄道遺産ものがたり 6 - 平成筑豊鉄道編 - 』	12月
12	『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅹ - 平成 28・29 年度 - 』	3月
13	『福岡県文化財調査報告書 第 270 集 保加町遺跡』	3月
14	『福岡県文化財調査報告書 第 271 集 宮ノ前遺跡』	3月
15	『久留米・うきは工業用地造成事業関係埋蔵文化財調査報告 鷹取ヒゲジロ遺跡』	3月
16	『大宰府史跡発掘調査 50 年記念シンポジウム資料集』	11月
17	『展望・大宰府研究 大宰府の官衙 - 大宰府政庁周辺官衙跡の調査から - 』	12月
18	『古代・中世における金属溶解技術の解明に関する研究 - 復元鑄造実験及び展覧会の記録 - 』	3月

(11) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。

○韓国国立文化財研究所への職員派遣

期 間：31年2月8日（金）～2月22日（金）（14日間）

派遣職員：福岡県教育庁九州歴史資料館 技術主査 遠藤 啓介

研修内容：沈没船出土の高麗青磁および中国陶磁器、高麗から朝鮮王朝時代の窯跡の踏査および出土品を調査し、日本出土品との比較検討を行う。

主な訪問先：

- < 1日目 > 国立文化財研究所
- < 2日目 > 国立全州博物館・国立中央博物館
- < 3日目 > 国立国立中央博物館
- < 4日目 > 国立慶州博物館
- < 5日目 > 広州官窯博物館 京義道陶磁博物館など
- < 6日目 > 国立扶余博物館、国立公州博物館など
- < 7日目 > 国立羅州文化財研究所
- < 8日目 > 高興粉青文化博物館 康津青磁博物館など
- < 9日目 > 国立羅州博物館 国立光州博物館 忠孝洞窯跡
- < 10日目 > 扶安青磁博物館 霊岩陶器博物館
- < 11日目 > 国立海洋文化財研究所
- < 12日目 > 国立海洋博物館
- < 13日目 > 国立文化財研究所
- < 14日目 > 国立中央博物館・漢城百済博物館

○韓国国立文化財研究所からの研究員派遣

期 間：31年1月11日（金）～1月25日（金）（15日間）

派遣職員：大韓民国国立文化財研究所 学芸研究官 韓 旭

派遣内容：歴史環境の保存及び活用方法に関する研究（建造物・史跡を中心に）

○日韓学術文化交流事業講演会

期日：31年1月24日（木）

会場：九州歴史資料館

講演：韓 旭（大韓民国国立文化財研究所学芸研究官）

「歴史環境の保存と活用」

(12) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

30年7月26日(木)に森会長ほか9名の委員が出席して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 平成29年度事業報告
- 2 平成30年度事業計画

九州歴史資料館協議会委員名簿

30年6月1日現在

	氏名	所属
(会長)	森 醇一朗	久留米大学比較文化研究所客員教授
(副会長)	藤口 悦子	鍋島報効会徴古館副館長
委員	河上 信行	河上建築事務所所長
	佐古 和枝	関西外国語大学教授
	柴田 博子	宮崎産業経営大学教授
	小林 知美	筑紫女学園大学准教授
	清武 輝	小郡市教育委員会教育長
	樋田 京子	太宰府市教育委員会教育長
	瓜生 郁義	桂川町教育委員会教育長(前桂川町立図書館長)
	高妻 洋成	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
	中野 等	九州大学大学院比較社会文化研究院教授
	工藤 正則	小郡市立三国中学校長
古賀 淳子	大野城市立平野小学校長	

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和 43 年 7 月 1 日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第 1 回委員会が開催される。
昭和 44 年 9 月 5 日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和 46 年 3 月 8 日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約 14 万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和 47 年 3 月	建設工事竣工（落成式）
昭和 47 年 4 月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下 19 名発令
昭和 47 年 5 月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和 47 年 11 月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員 15 名を委嘱）
昭和 48 年 2 月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2 月 24 日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開始まる）
昭和 49 年 8 月	求菩提資料館開館
昭和 50 年 9 月 4 日	博物館相当施設（相当施設第 9 号）
昭和 53 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 10 周年記念特別展「一甦る遠の朝廷—大宰府」開催
昭和 56 年 4 月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和 59 年 2 月	開館 10 周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館 10 周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和 60 年 4 月 1 日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和 60 年 5 月 25 日	甘木歴史資料館開館
昭和 60 年 10 月 1 日	柳川古文書館開館
昭和 63 年 9 月	大宰府史跡発掘調査 20 周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷—大宰府」開催
平成 2 年 9 月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～ 11 月）
平成 5 年 4 月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成 5 年 10 月	開館 20 周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成 8 年 4 月	高橋良平、第四代館長に就任
平成 8 年 12 月 26 日	公開承認施設（第 51 号）
平成 9 年 6 月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成 10 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 30 周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成 14 年 4 月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成 15 年 1 月	開館 30 周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成 15 年 8 月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成 16 年 4 月	特別展「大宰府へ、くが動き、ものが動く」開催
平成 18 年 11 月	特別展「観世音寺」開催
平成 20 年 4 月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする

	小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成 20 年 10 月	大宰府史跡発掘調査 40 周年記念事業開催（～ 12 月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成 21 年 6 月	新九州歴史資料館建設工事竣工
平成 22 年 3 月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成 22 年 7 月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成 22 年 11 月 20 日	開館記念式典・一般公開開始（21 日～） 開館記念特別展「大宰府—その栄華と軌跡—」開催（～ 1 月）
平成 22 年 12 月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道—古代の役所と人々のくらし—」開催
平成 23 年 2 月	常設展公開開始
平成 23 年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成 23 年 7 月 25 日	登録博物館（第 22 号）
平成 23 年 11 月	特別展「発掘された日本列島 2011」開催（～ 12 月）
平成 24 年 1 月	移転開館 1 周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～ 2 月）
平成 24 年 10 月	特別展「長崎街道—世界とつながった道—」開催（～ 12 月）
平成 25 年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（～ 3 月）
平成 25 年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成 25 年 9 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈り—九州の覇権のゆくえ—」開催（～ 11 月）
平成 25 年 10 月	開館 40 周年・移転開館 3 周年記念イベント開催
平成 26 年 1 月	企画展「五卿と志士—維新前夜の太宰府—」開催（～ 2 月）
平成 26 年 4 月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成 26 年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～ 9 月） 企画展「水城築堤 1350 年記念企画展「徹底解説!! 水城のすべて」開催（～ 9 月）
平成 26 年 10 月	特別展「福岡の神仏の世界—北部九州に華ひらいた信仰と造形—」開催（～ 11 月）
平成 26 年 11 月	入館者 10 万人達成記念式典
平成 27 年 9 月	企画展「貝原益軒—大宰府研究の先賢たち—」開催（～ 10 月）
平成 27 年 10 月	大野城築城 1350 年記念・移転開館 5 周年記念特別展 「四王寺山の 1350 年—大野城から祈りの山へ—」開催（～ 12 月）
平成 27 年 10 月	移転開館 5 周年記念イベント開催
平成 28 年 9 月	特別展「八女の名宝」開催（～ 11 月）
平成 28 年 11 月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～ 1 月）
平成 29 年 8 月	特別展「霊峰英彦山」開催（～ 9 月）
平成 29 年 10 月	企画展「福岡県の城」（～ 12 月）
平成 30 年 2 月	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」（～ 4 月）
平成 30 年 4 月	特別展「大宰府への道」開催（～ 6 月）
平成 30 年 9 月	企画展「発掘速報展 2018」開催（～ 12 月）

(2) 施設概要

- 1) 本館棟 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上2階
展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、
特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
- 2) 敷地面積 43,438.62 m²
- 3) 延床面積 9,475.92 m²
- 4) 一般収蔵庫棟 鉄骨造
木器保存処理室・一般収蔵庫
- 5) 建設費 約36億円(本館・一般収蔵庫)

(3) 予算(平成30年度)

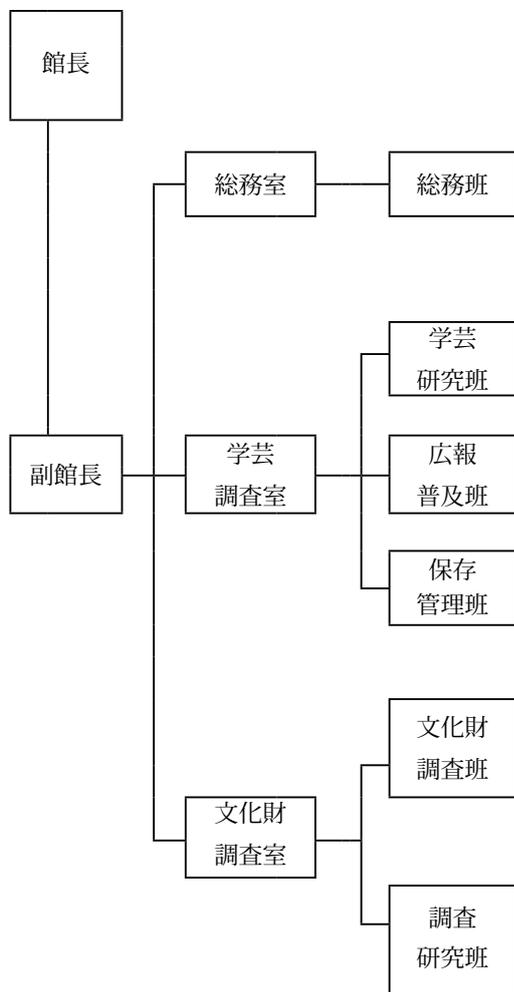
九州歴史資料館の事業費総額は321,521千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1	九州歴史資料館費	300,038千円
	資料館運営費	105,852千円
	歴史資料調査研究費	1,514千円
	歴史資料等収集整備費	732千円
	資料館展示費	1,668千円
	特別展示事業費	9,588千円
	県史史料管理公開事業費	9,004千円
	公用車更新費	2,244千円
	九州歴史資料館整備費	164,034千円
	福岡国際交流史発信事業	5,402千円
2	文化財保護費	21,483千円
	大宰府史跡発掘調査費	21,483千円

※執行委任事業は除く

(4) 組織・職員 (平成30年4月1日現在)

①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要
館 長		杉 光 誠	非常勤
副館長		東 良	
総務室	企画主幹		尾 籠 哲 弥 総務室長
	総務班	企画主査	中 村 満 喜 子 総務班長
		事務主査	前 原 俊 史
		事務主査	林 田 朋 子
		主任主事	原 野 貴 生
		主事	具 志 堅 靖 知
	主任技能員	松 本 優	
学芸調査室	参事		小 田 和 利 学芸調査室長
	学芸研究班	参事補佐	松 川 博 一 学芸研究班長
		企画主査	井 形 進
		技術主査	酒 井 芳 司
		技術主査	遠 藤 啓 介
		技師	日 野 綾 子
	広報普及班	参事補佐	秦 憲 二 広報普及班長
		指導主事兼事務主査	峯 大 志
		指導主事兼事務主査	手 島 綾
		主任技師	渡 部 邦 昭
	保存管理班	企画主査	加 藤 和 歳 保存管理班長
技術主査		小 林 啓	
文化財調査室	企画主幹		吉 村 靖 徳 文化財調査室長
	企画主幹		伊 崎 俊 秋 文化財調査室長補佐
	文化財調査班	参事補佐	森 井 啓 次 文化財調査班長
		参事補佐	小 川 泰 樹
		参事補佐	齋 部 麻 矢
		技術主査	坂 元 雄 紀
		技術主査	岡 田 諭
		技師	梶 佐 古 幸 謙
	調査研究班	参事補佐	吉 田 東 明 調査研究班長
		技術主査	岡 寺 良
技術主査		大 庭 孝 夫	

②九州歴史資料館研究論集委員会

委員長	館 長 杉 光 誠		
委 員	副館長 東 良	委 員	学芸研究班長 松 川 博 一
委 員	学芸調査室長 小 田 和 利	委 員	調査研究班長 吉 田 東 明

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

(昭和 60 年 1 月 21 日福岡県条例第 4 号)

最終改正 平成 27 年 12 月 福岡県条例第 63 号
(設置)

第 1 条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律
(昭和 31 年法律第 162 号) 第 30 条の規定に基づき、
歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第 2 条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第 3 条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和 39 年福岡県条例第 5 号) 第 3 条から第 6 条まで及び第 9 条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第 4 条第 1 項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第 4 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号) 第 20 条第 1 項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第 6 項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、15 人以内とする。

4 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
(使用料)

第 5 条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第 1 各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第 6 条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第 2 の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第 7 条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第 8 条 前 3 条の規定は、第 2 条第 2 項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第 9 条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号) 第 244 条の 2 第 3 項の規定により、法人その他の団体であつて教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

- 一 分館の利用の許可に関する業務
- 二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務
- 三 前 2 号に掲げるもののほか、教育委員会
が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第 10 条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

- 一 事業計画書
- 二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができる者と認められた者を指定管理者として指定するものとする。

- 一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。
- 二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。
- 三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。
- 四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。
- 五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則(平成27・12・25・条例第63号)

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

別表第1(第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区	分	金額(1回につき)
個人で観覧する場合	一般	200円
	大学生・高校生	150円
20人以上の団体に観覧する場合	一般	150円
	大学生・高校生	100円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区	分	金額(1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,450円
	第4展示室	8,350円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,170円
	第4展示室	12,520円

3 会議室及び研修室の使用料

区	分	金額(1時間につき)
	会議室	380円
	研修室1	380円
	研修室2	380円
	研修室3	380円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2(第6条関係)

区分	金額(1枚につき)
電子式複写(白黒)	10円
マイクロフィルムからの引き伸ばし	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48年2月20日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成22年6月 教育委員会規則第10号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日。

二 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等(分館にあっては指定管理者。以下「館長等」という。)が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

(開館時間)

第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。

2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。

(利用の申込)

第4条 資料館(分館を除く。)の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。

(利用申込の取消又は変更)

第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

に九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。

(利用の承認)

第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。

(資料の複写)

第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。

一 著作権法(昭和45年法律第48号)に違反するおそれがあると認められるとき。

二 資料館の管理上支障があると認められるとき。

三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めたとき。

2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。

(利用制限)

第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者

二 その他係員の指示に従わない者

(資料の館外貸出し)

第9条 資料の館外貸出しは、原則として行わないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。

2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。

3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。

4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。

5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。

(損害の賠償)

第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。

(寄贈又は寄託)

第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託を行うことができる。

2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。

3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。

(寄贈資料の取扱い)

第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。

(寄託資料の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。

2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。

3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。

4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。

(申請書及び添付書類)

第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類

(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項

は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則(平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

○九州歴史資料館組織規則

(昭和47年4月1日教育委員会規則第2号)

最終改正 平成23年3月 教育委員会規則第2号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 理 事	上司の特命に係る事務を処理する。
副 館 長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。

技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。
	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。
主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技 能 員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。
- 四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 五 考古資料の展示に関すること。
- 六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。
- 七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。
- 八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。
- 九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の收受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。
- 十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。
- 十一 九州歴史資料館協議会に関すること。

十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。

十三 施設設備の管理に関すること。

十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。

十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。
(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成23・3・30教育委員会規則第2号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館協議会規則

(昭和60年3月30日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成24年3月教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第4条第1項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は1年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第4条 協議会の会議は、委員の半数以上が

出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で 決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成24. 3. 28教育委員会規則第1号抄)

(施行期日)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成22年6月30日福岡県規則第30号)

最終改正 平成29年2月 教育委員会規則第34号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第2条 使用料(条例第5条第1項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第3条 条例第5条第2項ただし書の規則で定め

る場合は、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書の規定により還付する使用料の額は当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第4条 手数料(条例第6条の手数をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第5条 条例第7条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(以下「減免」という。)をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条例別表第1の1の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

三 児童福祉施設(児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。)に入所又は通所している少年(同法第4条第3号に規定する少年をいう。以下同じ。)が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額

四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児

- (同法第4条第2号に規定する幼児をいう。)
又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧料に係る観覧料の全額
- 五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成8年福岡県規則第55号）第9条第5号に規定する身体障害者若しくは身体障がいのある人、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和25年政令第155号）第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者（以下「障がいのある人」と総称する。）の介護人が当該障がいのある人とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額
- 十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用

- に係る使用料の全額
- 十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合当該複写に係る手数料の全額
- 十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額
- 十七 中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧する場合 当該（減免の申請）
- 第6条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。
- 2 前条各五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第九号に該当する場合にあっては、障がいのある人）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。
- 3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第2号）を知事に提出しなければならない。
- 4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第3号）を知事に提出しなければならない。
- 5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。
- 附 則
この規則は、平成22年7月1日から施行する。
附 則（平成29・9・29教育委員会規則第34号）
この規則は、平成29年10月1日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 30年度入館者状況

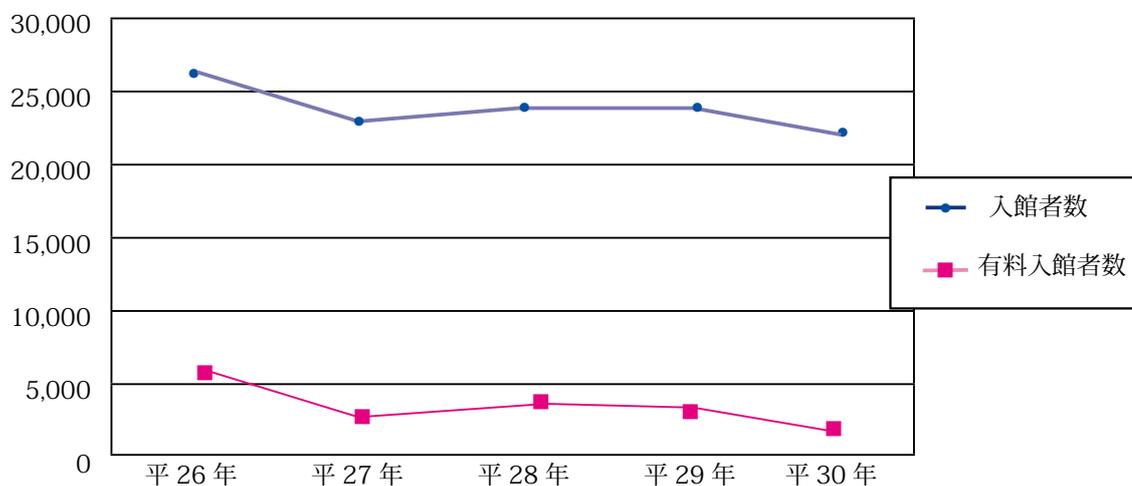
期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
30年 4月 1日から 31年 3月 31日まで	302日	23,367人	77人

イ 過去5年間の入館者推移
単位・人

年度 区分	開館 日数	合 計 入館者数	合 計 有料入館者数	合 計 入 館 者 内 訳			1日平均 入館者数
				大 人	高大生	中学生以下	
平26	309	26,343	5,686	22,450	741	3,152	85
平27	307	23,435	3,589	18,750	744	3,941	76
平28	307	23,962	3,869	19,764	551	3,647	78
平29	306	24,254	3,390	19,871	761	3,622	79
平30	302	23,367	1,585	19,504	731	3,132	77

※平成30年8月13日からつり天井工事のため、第1、第3展示室（有料展示室）を閉室中。

ウ 過去5年間の入館者推移単位・人



(2) 収蔵資料・図書

<寄贈等資料>

考古資料 287,372点
歴史資料 113,144点

<図 書>

購 入 4,847冊
寄 贈 171,564冊

4 日 誌 抄

月 日	内 容
平成30年2月10日(土)	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」(~4月11日(水))
3月6日(火)	企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔の暮らしと国づくり」(~9月2日(日))
6日(火)	パネル展「きゅうおにのご先祖様—大宰府の鬼瓦を探れ!!—」(~4月22日(日))
27日(火)	パネル展「保存科学成果展—古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2017~2018—」(~6月17日(日))
4月 1日(日)	桜コンサート(共催:桜コンサート実行委員会)
8日(日)	西鉄レールあんどハイク(共催:小郡市)
22日(日)	あすみマルシェ(共催:あすみパビリオン)
24日(火)	特別展「大宰府への道—古代都市と交通—」(~6月17日(日))
28日(土)	おりがみでカブトを作ろう!ぎっちょうを体験してみよう!
5月 3日(木)	小郡高等学校琴部演奏会・茶道部茶会(共催:県立小郡高等学校)
20日(日)	特別展開催記念茶会(共催:小郡市文化協会)
23日(水)	文化財安全パトロール
6月 3日(日)	特別展開催記念講演会
19日(火)	パネル展「シルクロードの文化遺産(2)」(~9月9日(日))
19日(火)	パネル展「きゅうおにと学ぶ九州ゆかりの偉人」(~9月2日(日))
22日(日)	企画展開催記念講演会
26日(木)	九州歴史資料館協議会
28日(土)	ナイトミュージアム in きゅうれき 夏
30日(土)	企画展「明治維新150年記念企画展・福岡県中近世城館遺跡等分布調査成果展②幕末の城—近世の沿岸警備と幕末期城郭—」(~8月12日(日))
8月 2日(木)	夏休みこども組紐教室
3日(木)	パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり6~平成筑豊鉄道編~」(3月17日(日))
9日(木)	埋蔵文化財安全衛生講習会
10日(金)	なるほど!!歴史教室2018
22日(火)	夏休みこども組紐教室
9月 11日(火)	企画展「発掘速報展2018—近年の調査成果と大宰府史跡発掘50年のあゆみ」(~12月2日(日))
11日(火)	パネル展「世界遺産・沖ノ島」(~12月9日(日))
10月 8日(月)	アクロス福岡ミュージアムコンサート(共催:アクロス福岡)
16日(火)	大宰府史跡調査研究指導委員会
17日(水)	
11月 3日(土)	あすみマルシェ(共催:あすみパビリオン)
4日(日)	古代体験まつり
10日(土)	大宰府史跡発掘50年記念シンポジウム
11日(日)	大宰府史跡現地説明会
12月 4日(火)	企画展「歴史の宝石箱」ダイジェスト展(~3月17日(日))
15日(土)	冬の組紐教室
1月 20日(日)	出会い事業(共催:子育て支援課)
2月 16日(土)	ナイトミュージアム in きゅうれき 冬
24日(日)	おりがみでMYおひなさま・組紐ストラップ
3月 19日(火)	企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔の暮らしと国づくり」(~7月15日(月))
19日(火)	パネル展「平成29年筑紫地区文化財写真展『ちくし再発見~弥生ものがたり~』」(~3月24日(日))

福岡県行政資料	
分類記号 J H	所属コード 2120261
登録年度 1	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（平成 30 年度）

発行日 令和元年 7 月 24 日

編集・発行 九州歴史資料館

〒 838 - 0106

福岡県小郡市三沢 5208-3

T E L 0942-75-9575

F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN

OF

KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

2018

CONTENTS

Preface

1	2018 Report of Kyushu Historical Museum	1
(1)	Survey and Research	1
(2)	Exhibition	14
(3)	Item Available	21
(4)	Study Support/Museum, school Cooperation	34
(5)	Volunteer	38
(6)	Dissemination/ Utilization	41
(7)	key initiatives Information transmission business of Fukuoka International Exchange History	52
(8)	Public Relations Activities	55
(9)	Practice and Training Opportunities	57
(10)	Published matter	59
(11)	Interchange	60
(12)	Conference and Meeting Facilities	61
2	Organization of Kyushu Historical Museum	62
(1)	History	62
(2)	Building and Grounds	64
(3)	Budget	64
(4)	Organization Chart and Staff	65
(5)	Rules and Regulations	66
3	Statistics of Kyushu Historical Museum	73
(1)	Museum Visitors	73
(2)	Total Materials and Books	73
4	Outline of 2018 Activities	74

九州歴史資料館年報

平成30年度

九州歴史資料館